

事業報告書の概要

本会が策定した『第4次女川町地域福祉活動計画』の基本目標に基づき、平成29年度事業計画の中で重点活動とした、①住民交流の場の提供、②福祉教育の推進、③総合相談体制の充実の3つの項目に取組み、地域や住民が主体となり、共に参加し・支えあいながら身近な問題の解決に向け、地域や住民の『自助・互助・共助』といった福祉力を高めることを目指し、各署において事業を展開しました。

各署における事業明細については、次のとおりです。

事務局

1 法人運営事業

(1) 本会の運営に関すること

①正副会長会議の開催

名 称	出席者数	会 期	協議事項
正副会長等会議	2名	H29. 10. 19	かねてより検討課題となっていた下記事業について協議を行った。 ①生活支援型配食サービス事業 ②紙おむつ等助成券支給事業 ③訪問散髪料金助成券支給事業

②理事会・監事会・評議員会の開催

理事会			
第 4 回	会 期	平成 29 年 6 月 12 日	
	理事定数	9 名	
	出席理事	7 名・監事 1 名出席	
	議 案	議案第 10 号	平成 28 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業報告の承認について
		議案第 11 号	平成 28 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会一般会計決算の承認について
		議案第 12 号	社会福祉法人女川町社会福祉協議会定款施行細則の全部改正（案）について
		議案第 13 号	社会福祉法人女川町社会福祉協議会会長専決決裁規程の一部改正（案）について
		議案第 14 号	社会福祉法人女川町社会福祉協議会会員会費規程の一部改正（案）について
		議案第 15 号	社会福祉法人女川町社会福祉協議会処務規程の一部改正（案）について
		議案第 16 号	社会福祉法人女川町社会福祉協議会臨時職員就業規則の一部改正（案）について
議案第 17 号		社会福祉法人女川町社会福祉協議会就業規則の一部改正（案）について	
議案第 18 号		役員を選任候補者について	
議案第 19 号	評議員会の招集について		
第 5 回	会 期	平成 29 年 6 月 28 日	
	理事定数	9 名	
	出席理事	7 名・監事 2 名出席	
	議 案	議案第 20 号 会長・副会長の選任について	

第 6 回	会 期	平成 29 年 10 月 31 日
	理事定数	9 名
	出席理事	9 名・監事 2 名出席
	議 案	議案第 21 号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会経理規程の一部改正 について 議案第 22 号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会経理規程施行細則の 一部改正について
	協議事項	事業の見直しについて
	報告事項	(1) 会長の職務執行状況報告書について (2) 会長専決・決裁報告事項について (3) 平成 29 年度地域福祉活動計画等の進捗状況について (4) 寄附金の採納状況について
第 7 回	会 期	平成 29 年 12 月 11 日
	理事定数	9 名
	出席理事	7 名・監事 2 名
	議 案	議案第 23 号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会職員の育児・介護休 業等に関する規則の一部改正について 議案第 24 号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会就業規則の一部改正 について 議案第 25 号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会臨時職員等就業規則 の一部改正について 議案第 26 号 役員の選任候補者について 議案第 27 号 福祉サービスに関する苦情解決に係る第三者委員の選任 候補者について 議案第 28 号 評議員会の招集について
	報告事項	(1) 会長専決・決裁報告事項 (2) 役員の退任について (3) 職員の採用について (4) 監督官庁が実施した検査又は調査の結果、改善状況について
	平成 30 年 第 8 回	会 期
	理事定数	9 名
	出席理事	9 名・監事 2 名出席
	報告事項	(1) 地域活動支援センター（うみねこ園）の継続運営について (2) 平成 29 年度地域福祉活動計画等の進捗状況について

第 9 回	会 期	平成 30 年 3 月 19 日
	理事定数	9 名
	出席理事	9 名・監事 2 名出席
	議 案	<p>議案第 29 号 平成 29 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会一般会計補正予算（第 1 号）について</p> <p>議案第 30 号 生活安定資金貸付金の償還免除について</p> <p>議案第 31 号 社会福祉法人女川町社会福祉協議会役職員等の旅費の支給に関する規程の一部改正について</p> <p>議案第 32 号 女川町地域活動支援センター運営規程の一部改正について</p> <p>議案第 33 号 女川町日中一時支援事業運営規程の一部改正について</p> <p>議案第 34 号 平成 30 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業計画について</p> <p>議案第 35 号 平成 30 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会一般会計資金収支予算について</p> <p>議案第 36 号 評議員会の招集について</p>
報告事項	<p>(1) 会長の職務執行状況報告書について</p> <p>(2) 会長専決・決裁報告事項について</p> <p>(3) 寄附金の採納状況について</p>	

監事会		
	期 日	平成 29 年 6 月 1 日
	監事定数	2 名
	出席監事	2 名
	内 容	<p>平成 28 年度における次の項目について監査を受けた。</p> <p>(1) 理事の職務の執行状況</p> <p>(2) 事業報告</p> <p>(3) 事業報告の附属明細書</p> <p>(4) 貸借対照表</p> <p>(5) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）</p> <p>(6) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書</p> <p>(7) 財産目録</p>

評議員会		
第 3 回	会 期	平成 29 年 6 月 28 日
	評議員定数	17 名
	出席評議員	13 名・会長・監事 1 名
	議 案	<p>議案第 6 号 平成 28 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業報告の承認について</p> <p>議案第 7 号 平成 28 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会一般会計収支決算の承認について</p> <p>議案第 8 号 役員を選任候補者について</p>

	報告事項	(1) 平成 29 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業計画について (2) 平成 29 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会一般会計収支予算について (3) 社会福祉法人女川町社会福祉協議会定款施行細則の全部改正について
第 4 回	会 期	平成 29 年 12 月 19 日
	評議員定数	17 名
	出席評議員	17 名・会長・監事 1 名
	議 案	議案第 9 号 役員の選任候補者について
	報告事項	(1) 役員の退任について (2) 正規職員及び臨時職員の採用について (3) 監督官庁が実施した検査又は調査の結果、改善状況について
平成 30 年 第 5 回	会 期	平成 30 年 3 月 28 日
	評議員定数	17 名
	出席評議員	13 名・会長・監事 2 名
	議 案	議案第 10 号 平成 29 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会一般会計補正予算 (第 1 号) について 議案第 11 号 平成 30 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会事業計画について 議案第 12 号 平成 30 年度社会福祉法人女川町社会福祉協議会一般会計資金収支予算について 議案第 13 号 役員の報酬に関する同意について
	報告事項	臨時職員の継続採用・退職について

(2) 会員募集に関すること

会員 (一般・賛助・特別) の加入促進及び増強

区 分	会費の額	件 数	前年度実績	増 減
一般会費	2,245,800 円	1,961 件	1,945,100 円	300,700 円
賛助会費	245,000 円	49 件	265,000 円	△20,000 円
特別会員	460,000 円	46 件	490,000 円	△30,000 円
合 計	2,950,800 円	2,056 件	2,700,100 円	250,700 円

(3) 地域福祉活動計画の進行管理に関すること
 地域福祉活動計画の進捗管理及び評価の実施

【取組み】

役場と合同で開催される工程会議への出席

回数	開催日・場所	内 容
第1回	平成 29. 10. 31 地域福祉センター	理事会において、「平成 29 年度地域福祉活動計画等の進捗状況について」報告
第2回	H30. 2. 21 地域福祉センター	理事会において、「平成 29 年度地域福祉活動計画等の進捗状況について」報告

【取組みに関する評価及び課題】

●進捗管理に併せて評価などを行いながら、次期計画に備えることが必要。

(4) 法人の経営関係に関すること

【取組み】

経営に関する知識向上を目的に、下記研修会への参加

・『社会福祉法人経営者セミナー ～改正社会福祉法に伴う公益的活動の実践に向けて～』

【取組みに関する評価及び課題】

○社会福祉法人同士の情報交換など顔の見える関係づくりが必要であることを学んだ。

(5) その他

①寄附採納状況

区分	寄附の額	件数	前年度	増減
一般寄附	1,688,447 円	65 件	2,984,809 円	△1,296,362 円
物品寄附	0 円	0 件	0 円	0 円
合 計	1,688,447 円	65 件	2,984,809 円	△1,296,362 円

②視察受入状況

期日	来町団体名	場所	人数	内 容
10. 26	仙台市若林区 民児協	福祉センター	23 名	東日本大震災からの新たなコミュニティづくり
11. 16	大崎市古川支所 宮沢地区	まちなか交流館	19 名	女川町の復興状況と地域へのかかわりや取組みの現状と今後について
11. 16	仙台市ボランティア協議会	まちなか交流館	19 名	今後の支援の在り方と宮城県沿岸部での被災地支援の取り組み
12. 7	南箕輪村社会福祉協議会	福祉センター	4 名	災害時における民生委員活動

2 地域福祉活動

1) 住民同士のつながりを深める事業

(1) 住民交流の場の提供

①町と協働した地区居住者同士や地域関係者との顔合わせ交流会の実施

【取組み】

対象地区	期 日	場 所	内 容
女 川 南	H29. 4. 1	女川南集会所	住民交流会（顔合わせ）
大 原 南	H29. 4. 8	大原南集会所	住民交流会（顔合わせ）
桜ヶ丘東住宅・ 鷺神住宅	H29. 10. 7	まちなか交流館	①入居説明会 ②タイルワークショップ（顔合わせ）
荒立住宅	H29. 10. 29	まちなか交流館	①入居説明会 ②タイルワークショップ（顔合わせ）
女 川 北	H29. 10. 30	女川住宅集会所	住民交流会（顔合わせ）①
女 川 北	H29. 11. 25	女川住宅集会所	住民交流会（顔合わせ）②
清 水	H29. 12. 8	役場仮設庁舎	住民交流会（顔合わせ）

【取組みに関する評価及び課題】

◎入居説明会で地域資源をマップや写真を用いたプレゼンをすることで、新しいコミュニティに転入する不安の緩和に寄与できた。

●入居説明会・タイルワークショップは冒頭の説明のみを聞いて退出される方も多く、幅広い住民のつながりづくりの場には至らなかった。

②地域住民が主体となった地区行事や交流機会の支援

【取組み】

○各地区のお茶会支援（大沢・浦宿二・旭が丘・上三・西二・内田蟹田仮設住宅）

○各地区の夏・秋祭り支援

（大沢・浦宿一・旭が丘・上三・上四・小乗浜・大原南・大原北・宮ヶ崎・石浜・日蕨・
一小仮設住宅・多目的仮設住宅・石巻B P仮設住宅）

○各地区の新年会支援（小乗浜・大原南・石浜）

○新規住民との交流促進を目指した交流会（上三・上四・上五）

【取組みに関する評価及び課題】

◎集いの場を支援し、現場に出向くことで住民との信頼関係を高め、今後求められている住民主体の支え合い体制づくりを促す下地が構築できた。

●地区の行事の参加者の顔ぶれが高齢者に偏っており、幅広い世代が交流する場になるような促しが必要だった。

③地域課題（孤食・孤立、当事者やその家族等）に対応した集いの実施に向けた検討

【取組み】

- 福祉教育推進事業運営委員会における地域課題の検討（年11回開催）
- 福祉教育推進事業運営委員会によるきらら女川地域食堂への協力
- 就労支援団体ひありんくとの情報共有

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎当事者家族を含む多様な顔ぶれの委員と協議を繰り返すことで、地域課題について意識を高めることができた。
- 共感や賛同を得るためには、裏付けになるデータとして貧困や孤立等の実態調査が必要。

④ふれあい交流会の実施

【取組み】 町内の70歳以上の方を対象に交流の機会づくりとして年7回開催した。

○町内地区

	期 日	内 容	場 所	参加人数
1	H29. 6. 30	コミュニケーション麻雀体験	まちなか交流館	36名
2	H29. 7. 28	かんたんクイズ大会	まちなか交流館	35名
3	H29. 9. 28	大 お 茶 っ こ 会	まちなか交流館	145名
事業費	財 源 内 訳			
	補助金	社協財源	その他	
	82,244	0	82,244	0

○離半島地区

	期 日	内 容	場 所	参加人数
1	H29. 7. 27	恵 謡 会 の 民 謡 披 露	竹浦集会所	17名
2	H29. 8. 2	恵 謡 会 の 民 謡 披 露	高白集会所	18名
3	H29. 11. 14	恵 謡 会 の 民 謡 披 露	出島集会所	15名
4	H29. 11. 24	ザ・ドングリーズの芸能披露	江島診療所	17名
事業費	財 源 内 訳			
	補助金	社協財源	その他	
	27,046	0	27,046	0

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎集会所を活用した高齢者による集いの場づくりが五部浦地区・北浦地区ではほとんど行われていなかったため、貴重な機会となった。
- 五部浦地区・北浦地区で各一カ所の会場では会場地元の参加者は増えるが、他地区からは送迎があっても参加につながりにくい傾向があり、各地区に集いの場が必要。

⑤同郷サロン開催に向けた支援

【取組み】

- 未実施

【取組みに関する評価及び課題】

- 女川町から転出した方々に対する関わりはサロン開催よりも、転入先の資源・機関につなげる必要があった。

(2) 生きがいつくりの場の提供

①生涯学習課等と協働による、生きがいつくり・参加者同士の交流を目的とした講座の開催に向けた支援

【取組み】

- 出前講座活用の促し
- ヨガ教室への協力
- ペタンク体験への協力
- 紙ランタンイベントへの協力
- 五部浦地区・北浦地区芸術鑑賞会への協力

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎お茶会や集いの場で生涯学習課の出前講座の活用に数多くつなげることができた。
- 五部浦地区・北浦地区芸術鑑賞会は、本会の交流会同様に会場の地元参加者は多くなるが、他地区からの参加が見込めないことが顕在化した。

②男性が社会参加できる機会づくりの支援

【取組み】

- ボランティア活動紹介
・健康麻雀ボランティア（永楽会）

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎麻雀ボランティアの募集はわずかであったが積極的な応募があり、継続的な活動が無理なく行えていた。また、活動場所への移動手段も車で乗り合わせで参加しており、仲間作りの場ともなった。
- 男性がそれぞれ持つスキル・嗜好を把握して、それに応じた社会参加の促しや場づくりが必要。

(3) 地域コミュニティの活性化・支援

①地域の実態把握

【取組み】

- 地区診断：全地区
- 社会資源把握シートの作成
- 資源マップの作成
- 生活支援コーディネーターの地域情報紙「いいものみつけ」作成と掲示

【取組みに関する評価及び課題】

◎地区診断と社会資源把握シートを整備することで、これまで蓄積した情報を落とし込むことで、コミュニティの実状を客観的に把握する体制が整った。

●把握した情報を可視化したがる、どのように地域に対し提示や発信していくことの協議を深められなかった。

②様々な集いの場（サロン等）を開催できるような促し

【取組み】

- 大原南コミュニケーション麻雀
- 大原南コミュニティボックスカラオケ
- 大原南ラジオ体操
- 舞踊会の女川北への移行支援
- 表札づくり（大原南・女川北・西）

【取組みに関する評価及び課題】

◎住民の活動に対する意欲を捉え、機材の貸出しや連絡調整等で支援し、自主活動の立ち上げにつなげた。

●自主性への配慮もあって促しに留まっている事例もあり、地域によっては踏み込んだ介入があっても良かった。

③独自メニューによる出前講座の開発と展開

【取組み】

- 支え合い講話「幸せの話」実施（浦宿二・上三・西二）
- 支え合いゲームの開発と展開

期 日	対象者	場 所	参加人数
H29. 9. 7	登 録 ボ ラ ン テ ィ ア	地域福祉センター会議室	25名
H29. 9. 26	女川中学校防災委員会	女 川 中 学 校	12名
H29. 10. 20	女川小学校3年生	女 川 小 学 校	30名
H29. 11. 9	ぴんぴん元気推進塾受講生	まちなか交流館	14名
H29. 12. 20	支部長・福祉活動推進員	まちなか交流館	33名
H30. 1. 12	民生委員児童委員	ホテル華夕美	25名

【取組みに関する評価及び課題】

◎支え合いの講話を地区展開するために、その他の福祉の出前講座メニューも盛り込んだ周知チラシを作成・配布して、判断材料を提供した。

●出前講座の積極的な活用を待つのではなく、提案型で実施していくことも必要。

④ボランティアセンター事業の活性化

【取組み】

- ボランティア登録者の増進 14名増加
- 広報紙の活用
 - ・社協だよりによるボランティア活動者紹介
- 掲示板・ウェブサイトの活用
 - ・月間報告の掲示
 - ・ボランティア登録フォーム
- 大型イベントの実行委員会参画による各機関との連携協働
 - ・おながわ秋刀魚収穫祭 2017
 - ・女川町復幸祭 2018
- 麻雀ボランティアの育成と派遣
 - ・永楽会デイサービス麻雀ボランティア
- 福祉教育のサポーター
 - ・女川小学校福祉教育
 - ・支え合いゲーム体験
- 芸能団体ボランティア派遣
 - ・お茶会・新年会・忘年会・離島交流会
- 機材貸出し
- 個人ニーズを地域の支え合いにコーディネート（行政区のコーディネート機能との連携）

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎社協だよりにより活動者の実践する姿や声を積極的に掲載し、活動者の意欲を高め非活動者の意識啓発につなげた。
- 個人からの直接的なボランティア要請はほぼ無く、専門職経由での相談がほとんどとなり、相談窓口としての認知度を高めることと同時に、各機関との関係を増やし、地域の見守りの目ともつながっていく必要がある。

⑤ふれあい福祉バス事業の実施

【取組み】

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用団体数	2	5	3	5	3	4	3	6	2	1	1	0	35件
利用人数	47	94	53	90	59	94	62	99	36	22	20	0	676人

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎バスの活用により、金銭的負担を軽減して、住民の親睦・研修の実施を後押しすることができた。
- バス貸出しの事業目的と実際の活用が見合っているかどうか精査が必要。

(4) 自治組織の立ち上げ支援

①地域づくり計画を用いた地域支援

【取組み】

対象地区	期 日	場 所	内 容
女川北	H30. 1. 11	女川住宅集会所	行政区設立準備会①
女川北	H30. 1. 20	女川住宅集会所	行政区設立準備会②
女川北	H30. 2. 3	女川住宅集会所	行政区設立準備会③
女川北	H30. 2. 22	女川住宅集会所	行政区設立準備会④

【取組みに関する評価及び課題】

◎設立準備会に参画することで、地区の担い手候補者の把握と関係づくりが早い段階から構築できた。

●地区診断シートによる客観的な情報も踏まえて会議を実施できれば、より効果的に地域づくりを促せた。

②支え合い活動を意識した取組み

【取組み】

○表札づくりワークショップ（大原南・女川北・西）

【取組みに関する評価及び課題】

◎表札づくりをテーマに、表札の必要性和支え合いの必要性を講話で理解いただき、今後の住民による地域づくりを意識づける機会となった。

●表札以外の取組みを検討できなかった。

(5) 福祉関係団体への支援

福祉関係団体の活動の活性化に向けた支援

（老人クラブ連合会・身体障害者福祉協会・遺族会・ひとり親家庭福祉会）

【取組み】

○会の目的を踏まえた活動が実施できるよう支援を行った。

【取組みに関する評価及び課題】

●本会が事務局をしている強みを活かした提案や関わりが必要。

2) 地域の福祉力を高める事業

(1) 福祉教育の推進

①学校の総合的な学習及び他教科における福祉学習を意識した幅広い学習への協力

【取組み】

	期 日	講 座 名	内 容
1	H29. 10. 13	障 害 者 体 験	車 い す に の る
2	H29. 10. 20	福 祉 っ て な ん だ ろ う ？	福 祉 に つ い て 学 ぶ
3	H29. 11. 2	高 齢 者 体 験	高 齢 者 の 疑 似 体 験
4	H29. 12. 8	は たら く 犬 に つ い て 調 べ よ う	も う ど う 犬 の 訓 練
5	H29. 12. 15	調 べ 学 習	バ リ ア フ リ ー マ ッ プ 作 り
事 業 費	財 源 内 訳		
	補 助 金	社 協 財 源	そ の 他
30,000	0	30,000	0

【取組みに関する評価及び課題】

◎学年担任の計画に添いながら、提案と助言を行いながら、より良いプログラムを協働で構築して実施に当たった。

●年度後半に協力依頼が来ることが多いことから、次年度は年度初めに学校側に意向を確認した上で、あらかじめ計画を立てて対応を行う。

②全世代に対応できる福祉プログラムの検討・開発

【取組み】

○福祉教育推進事業運営委員会における「支え合いゲーム」の検討・開発

○小・中学生向けカード型支え合いゲームの実施

【取組みに関する評価及び課題】

◎気づきを促すツールとして開発した「支え合いゲーム」を様々な場・世代を対象に行いながら、内容の変更や進行方法を検討し、支え合い講話と組み合わせることで、一定の形をつくることができた。

●気づきの次の段階を捉えたプログラム開発に取り組む必要がある。

③防災学習とのつながりを意識した福祉学習

【取組み】

○小学校の防災教育では楽しく学ぶことのできる多様なプログラムを生涯学習課担当者と協働で構築した。

	期 日	講 座 名	内 容
1	H29. 6. 20	防 災 ゲ ー ム、 防 災 ク イ ズ	ひ な ん グ ヅ ズ を 考 え る
2	H29. 6. 22	火 起 こ し 体 験、 ス ー プ 作 り	サ バ 飯 づ く り を す る
3	H29. 6. 23	簡 単 ラ ン プ 作 り	簡 単 ラ ン プ を 作 る
4	H29. 7. 12	非 常 食 調 理	非 常 食 調 理 を す る
5	H29. 9. 11	水 難 事 故 防 止 研 修、 着 衣 泳	水 の 事 故 を 防 ぐ

事業費	財 源 内 訳		
	県社協補助金	社協財源	その他
356,837	300,000	56,837	0

○女川中学校「丸子山防災」へのプログラム提供と講師対応

【取組みに関する評価及び課題】

◎女川中学校の防災教室で災害ボランティアセンター運営訓練と非常食調理訓練の体験型プログラムを提供して、地域の担い手である生徒たちの防災意識を高めた。

●子どもから高齢者まで含めた多世代の住民参加型で行う防災マップづくり等、幅広い世代の防災意識・支え合い意識を高める取り組みが必要。

(2) 人材育成

①地域の中の人材の発掘と把握

【取組み】

○大型イベントでの実行委員会への協働からつながりができ、若い世代の人材確保を図りボランティア登録につなげた。(秋刀魚収穫祭 2017)

○ボランティア登録制度を使いながら幅広い世代の人材発掘と活用に努めている
(ボランティアセンター)

○生涯学習課・健康福祉課・社会福祉協議会の連携会議(年3回実施)

○地区別人材把握シートの整備

【取組みに関する評価及び課題】

◎人材を抱えている社協・生涯学習課・健康福祉課による連携会議で、それぞれが有する推進員名簿を集約し、登録ボランティア等の担い手も加えた地区別での人材把握シートを整備し、各地区の担い手を可視化できた。

●社協・生涯学習課・健康福祉課に限らずまち活等、多様な人材を抱える機関との情報共有の場を設けて、さらなる人材の把握につなげる。

②地域住民の意識高揚を目的とした取り組み

【取組み】

○支え合いの講話「幸せの話」の実践(上三・西二)

○支え合いの講話の地区展開

期 日	対 象 者	場 所	参加人数
H29. 11. 9	ぴんぴん元気推進塾受講生	まちなか交流館	14名
H29. 12. 20	支部長・福祉活動推進員	まちなか交流館	33名
H30. 1. 12	民生委員児童委員	ホテル華夕美	25名

○支え合いゲームの実践

期 日	対 象 者	場 所	参加人数
H29. 9. 7	登 録 ボ ラ ン テ ィ ア	地域福祉センター	25 名
H29. 9. 26	女川中学校防災委員会	女 川 中 学 校	12 名
H29. 10. 20	女川小学校 3 年 生	女 川 小 学 校	30 名
H29. 11. 9	ぴんぴん元気推進塾受講生	まちなか交流館	14 名
H29. 11. 15	女川中学校 1 年 生	女 川 中 学 校	45 名
H29. 11. 20	女川小学校 3 年 生	女 川 小 学 校	32 名
H29. 12. 20	支部長・福祉活動推進員	まちなか交流館	33 名
H30. 1. 12	民生委員 児童委員	ホテル華夕美	25 名

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎支え合い講話やゲーム体験を通して住民の意識高揚につながったことで、その後の住民による自主的な話し合いの内容や支え合い活動の実践を図ることができた。
- 地域からの自発的な出前講座の依頼までには至っておらず、各地区へ積極的に提案し啓発活動を行う。

③地区における集いの場の自主活動化に向けた支援

【取組み】

- 講師対応：大原南区
- 機材貸出：大原南区
- 調整：野球場仮設住宅舞踊会の女川北区への移行支援
- 大原南区カラオケサークル
- 上五区ラジオ体操
- 大沢区お茶会の次年度計画策定支援

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎集いの場を求める住民の声を捉えて区長に情報提供し、資材提供やアドバイス・連絡調整などを行うことで、立ち上げを支援することができた。
- 住民の主体性に配慮しながら、促しにとどまっている事例については積極的な介入も必要。

(3) 地区座談会の実施

①集いの場を活かした対話文化の醸成

【取組み】

- 地域づくり会議の進行・調整役
- 生活支援体制整備事業協議体の運営を通じた醸成

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎地区での実践活動の様子を見てもらい、身近な支え合い活動に焦点を当て、自分ごととして捉えられ対話のしやすい会議となった。
- 提案型ではなく、住民から自発的な話し合いの場を設けられるような形にもって行く必要がある。

②地域の実情に合わせた地区座談会の実施

支え合い体制づくり事業での地域づくり会議と合わせた開催

【取組み】

開催地区	開催日	参加人数	会 場	内 容
石巻B P	H29. 6. 2	6名	石巻B P西仮設集会所	(1) スライド講話 「これからの地域づくり」 (2) 意見交換 ・地域のいいところ ・地域の課題 ・ふだんやっている支え合い (3) その他(質疑応答)
宮ヶ崎	H29. 6.26	11名	旧三保仮設談話室	
石 浜	H29. 7.20	3名	石 浜 集 会 所	
旭が丘	H29. 7.20	13名	旭が丘集会所	
上 五	H29. 8.25	9名	東北電力堀切集会所	
女川北	H29.10.17	11名	女川住宅集会所	
上 四	H29.10.21	13名	さくら集会所	
針 浜	H29.10.31	8名	針 浜 集 会 所	
大 沢	H29.11.13	5名	大沢安住集会所	
上 三	H29.12. 7	6名	旧子育て支援センター	
大原北	H29.12. 8	10名	コミュニティプラザ	
小乗浜	H30. 1.19	10名	小 乗 集 会 所	
浦宿一	H30. 1.23	13名	浦宿一区集会所	
浦宿二	H30. 2.15	10名	浦宿二区集会所	
浦宿三	H30. 2.23	12名	尾田峯集会所	
西 二	H30. 3. 9	7名	西 区 集 会 所	

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎地域ごとに支え合い活動の有無や取組みの頻度が異なるため、活動が盛んな地域においてはより活動的な取組みになるよう支援し、活動が見えにくい地域においては、既に取組んでいる何気ない支え合い活動を掘り起こして、意味づけした。
- 担い手となる地域人材が参加しやすい設定に工夫が必要だった。

(4) 福祉フォーラム等の開催

多角的なテーマを取り上げた福祉フォーラム等の開催

【取組み】

○復興推進課主催のまち活フォーラムへの協力

【取組みに関する評価及び課題】

◎単独での開催には至らなかったが、復興推進課が実施するフォーラムに協力することで、テーマの中に地域福祉の要素を盛り込むことができた。

●単独での実施にこだわる必要はない。

(5) 福祉活動推進員の活動の推進

①福祉活動推進員研修会（情報交換会）の開催

【取組み】

期 日	場 所	内 容	参加人数
H29. 7. 24	地域福祉センター会議室	繋がって支え合おう	37名
H29. 12. 20	まちなか交流館	地域が元気でいられるために	33名

【取組みに関する評価及び課題】

◎福祉活動推進員が各地でそれぞれ行っている活動を共有することで、互いに刺激し合い、町内全体の意識を高めることにつながられた。

●福祉活動推進員がいない地域での配置を促す必要があった。

②地域住民に対する福祉活動推進員の活動の啓発

【取組み】

○社協だより 9月号に活動掲載

○支え合い事業者会議での啓発

○民協定例会での啓発

○地域づくり会議での啓発

【取組みに関する評価及び課題】

◎社協だよりで福祉活動推進員の活動内容と氏名を記載することで広く周知することができた。

●より広く啓発するために氏名だけではなく、福祉活動推進員の顔写真の掲載を検討したい。

(6) 助成金制度の周知と活用の促進

①地域復興助成金事業の実施と具体的な取り組み状況の発信

【取り組み】

名 称	助成地区数	助 成 内 容	
地域復興助成金事業	22 件	行政区や仮設自治会等が行う、地域住民間での交流活動等	
事業費	財 源 内 訳		
	町補助金	社協財源	その他
635,000 円	0 円	635,000 円	0 円

【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎助成金を支給するだけでなく機材貸出しやアイデアの提供を行い、現場でのフォローも行いながら、さらなる内容の充実やつながりづくりに努めた。
- 当初は全国からの寄附を財源に実施していたが、震災から7年を経て財源が枯渇してしまった現状があり、平成29年度をもって終了とした。

②各種助成制度の周知

【取り組み】

- 支部長会議による周知
- 助成金の活用
 - 七十七愛の募金会（1 団体）
 - 赤い羽根共同募金会「むすび丸ピンバッチ募金」の図書支援（1 団体）

【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎2 件の団体助成につなげた。
- 各種助成制度の情報を提供したが、活かされたどうかの把握を行う必要があった。

3) 地域での安心できる暮らしを支える事業

(1) 総合相談体制の充実

①支部長や福祉活動推進員等による相談体制の構築

【取り組み】

- 支部長会議・福祉活動推進員会議での理解促進
- 社協だより8月号で啓発
- 地域づくり会議での啓発
- 相談機関一覧表の作成・配布

【取り組みに関する評価及び課題】

- ◎地域づくり会議の場でここから支援員体制の終了と地域移行について説明を行い、身近な相談窓口としての支部長と福祉活動推進員であることを周知した。併せて相談機関一覧表を配布することで、受けた相談のつなげ先を明確に示し、活動のしやすさ・負担感の軽減を図った。
- さらに活動をしやすくするために、受けた相談が機関につながるまでを示したフローチャートがあるとなお良い。

②地域支え合い体制づくり事業におけるここからサブセンターとの連携

【取組み】

○エリア会議・地域づくり会議・個別ケース会議等での関係機関との情報共有

【取組みに関する評価及び課題】

◎定例で実施することにより情報の共有が効率的に図れた。

●個別ケースを地域ケア的視点で、地域資源につなげていくような実践には至らなかった。

③関係機関と連携した相談対応や相談会開催の支援

【取組み】

○関係機関との連携

- ・日常生活自立支援事業「まもり～ぶ」での金銭管理
- ・地域共生財団による食糧支援
- ・宮城県司法書士会と連携した情報提供
- ・宮城県行政書士会と連携した情報提供
- ・東京青年司法書士会の巡回相談

○関係機関による情報共有

- ・宮城県北部自立相談支援センター「ひありんく」での就労支援

【取組みに関する評価及び課題】

◎幅広く関係機関と連携が図られた。

●関係機関につないだケースの状況確認が必要だった。

(2) 民生委員児童委員との連携と支援

①民生委員活動に関する情報の提供

【取組み】

○個別ケースの情報提供

○生活支援型配食サービス利用者情報の提供による見守り支援

○民協定例会での情報提供

【取組みに関する評価及び課題】

◎制度につながらない個別ケースの相談対応を支援した。

●地域課題や個別ケース対応について、民生委員との関わり・協働をさらに高めていく必要がある。

②担当地区毎の要援護者の把握・情報交換・訪問活動への同行

【取組み】

○ケース会議等、包括・ここから支援員・生活支援コーディネーターとの情報交換を必要に応じて随時実施

○民生委員との同行訪問

【取組みに関する評価及び課題】

◎困難ケースに民生委員と同行訪問して課題を共有して、支援の方向性を検討した。

●要援護者の把握や情報交換を行ったが、実際の民生委員活動や地域の支え合い活動につなげるような提案までには至らなかった。

(3) 広報活動の充実

①広報紙やホームページを活用した情報発信

【取組み】

発行回数	発行部数	ページ数	配布先
12回	3,600部/回	6P	町内全戸・郵送希望者・社協会員・県内外社協

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎表紙に住民の活動を積極的に取り上げることで、掲載された個人・団体の活動意欲を高め、身近な住民の活躍を知ることで、住民同士の交流のきっかけとなっている。
- 文字数やレイアウト・写真の使い方等、読みやすさについて検討が必要。

②モニター制度の導入による質の向上を図る

【取組み】

- 地域での集まりなどで社協だより等に関する意見を伺った。

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎地域に出向いた際に紙面に対する様々な住民からの意見を捉え、紙面作りに反映できた。
- モニター制度の導入に向け、ボランティア登録者から協力を得ながら、モニター制度を検討する。

(4) 権利擁護への理解の促進

①日常生活自立支援事業（まもり～ぶ）の実施

【取組み】

項目	人員	派遣回数等	備考
生活支援員の配置	1人	140回	※訪問頻度 利用者により週1回～月1回
サービス利用者の登録	4人		知的障害1名、認知症高齢者1名、その他2名
利用に係る判定会議		5回	石巻圏域利用者の判定に係る会議への出席

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎まもり～ぶの担当職員が利用者と基幹センターとのつなぎ役となって支援がスムーズに行えるようになり、支援員の安心感につながった。
- 支援員の担い手が不足しているため、人材の確保に努める。

②広報紙や集いの場を活用した権利擁護に関する周知

【取組み】

- 社協だより9月号にまもり～ぶについて掲載
- 社協だより11月号に権利擁護について掲載

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎権利擁護の事業が広く浸透してきている。
- 住民のみならず専門職に対しても事業の周知が必要であり、保健医療福祉調整会議等の場を活用して、制度の理解を広める。

(5) 虐待の早期発見と関係機関との連携

①虐待の早期発見と予防に向けた周知

【取組み】

- 社協だより 11月号に虐待の分類を掲載
- 関係機関から虐待の情報を収集し、効果的な周知を行った。

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎周知を図ることで、制度に対する住民の関心を高めることができた。
- 住民による支え合いの一環として捉えられるような啓発を行う。

②関係機関との情報共有

【取組み】

- 児童虐待に関しては、チャイルドラインみやぎと情報共有を実施。

【取組みに関する評価及び課題】

- 健康福祉課・東部保健福祉事務所との情報共有を図る。

(6) 法人後見の充実

成年後見制度における後見業務の実施

【取組み】

類型(種別)	対象者	訪問回数等	内 容
保 佐	1 人	24 回	被保佐人の財産管理、身上監護、福祉サービス等の申請代行手続き⇒後見等事務報告を家庭裁判所へ報告
補 助	1 人	24 回	H29. 12 月から受任 被補助人の財産管理、身上監護、公営住宅の解約、入所・入院手続き、福祉サービス等の申請代行手続き。精神不安のため、訪問頻度を増やし支援を行った。⇒後見等事務報告を家庭裁判所へ報告

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎まもり～ぶから切れ目なく後見につなげることができた。
- 受任するにあたっての要綱等整備が急務。

(7) 生活支援サービスの利用促進

①関係機関との協働による利用者の実態把握を行い、サービスの質の向上を図る

【取組み】

- ふれあい交流会における生活支援型配食サービスのアンケート実施。

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎アンケート結果に基づく事業の見直しを行った。
- 幅広い意味での生活支援サービスの実態調査が必要。

②紙おむつ等助成券支給事業の実施

【取組み】

○高齢者等を介護している世帯の経済的負担の軽減が図れた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交付者数	126	4	3	4	4	2	4	4	5	2	4	2	164
交付枚数	1,512	44	30	36	32	14	24	20	20	6	8	2	1,748
使用枚数	90	131	130	135	122	127	108	101	103	103	118	180	1,448
事業費	財 源 内 訳												
	町補助金	社協財源	その他										
5,252,000	4,000,000	1,252,000	0										

【取組みに関する評価及び課題】

◎経営環境の激変など諸般の事情を鑑み、平成29年度で事業を終了した。

③訪問散髪料金助成券支給事業の実施

【取組み】

○利用者の心爽やかで安らぎのある生活を支援することが図れた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交付者数	15	4	1	2	0	1	0	2	2	0	0	0	27
交付枚数	90	24	6	10	0	4	0	6	4	0	0	0	144
使用枚数	6	3	8	8	4	7	3	7	8	5	5	11	75
事業費	財 源 内 訳												
	町補助金	社協財源	その他										
150,000	0	150,000	0										

【取組みに関する評価及び課題】

◎経営環境の激変など諸般の事情を鑑み、平成29年度で事業を終了した。

④車いす及び福祉車両貸与等事業の実施

【取組み】

項 目	貸与等状況	項 目	貸与等状況
車いすの貸与	2件	リフトカーの貸出	3件

【取組みに関する評価及び課題】

●介護サービスによる福祉用具貸与事業の浸透により、本会が継続実施する意義は薄れてきている。

⑤生活支援型配食サービス事業の実施

【取組み】

○栄養のバランスのとれた食事の確保により利用者の健康維持・疾病予防が図れた。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用実人数	32	33	32	32	33	32	29	20	23	25	25	28	344
提供延食数	537	646	535	530	453	397	509	321	373	381	379	367	5,428
事業費	社 協 財 源												
	町補助金	社協財源	その他										
6,103,345	2,864,000	1,068,145	2,171,200										

【取組みに関する評価及び課題】

◎平成29年度での事業終了に伴い、石巻管内の配食事業者へ情報提供し、利用者が安心して食生活を維持できるようにつなげた。

⑥救急医療情報キット配布事業の実施

【取組み】

対 象 者	既配布件数	新規配布件数	合 計
65歳以上ひとり暮らし	552世帯838人	73世帯73人	625世帯911人
〃 ふたり暮らし			
障害手帳所持の単身者			

【取組みに関する評価及び課題】

◎民生委員活動においても配布を継続して行っている。

●配布済みの方においては記載内容の更新が滞っている現状があり、個別の促しが必要。

(8) ボランティアや住民の助けあいによる生活支援の展開

①地域での支えあい活動の推進

【取組み】

○支え合い講話「幸せの話」の実施（浦宿二・上三・西二）

【取組みに関する評価及び課題】

◎支え合いの講話で、担い手を含めた高齢者に対して支え合いの必要性を訴え、一定の理解を求めることができた。

●若い世代に対する啓発の機会づくりが実施できていない。

②生活課題解決に向けた地区毎の話しあいの場づくり

【取組み】

開催地区	開催日	参加人数	会 場	内 容
石巻BP	H29. 6. 2	6名	石巻BP西仮設集会所	(1) スライド講話 「これからの地域づくり」 (2) 意見交換 ・地域のいいところ ・地域の課題 ・ふだんやっている支え合い (3) その他(質疑応答)
宮ヶ崎	H29. 6. 26	11名	旧三保仮設談話室	
石 浜	H29. 7. 20	3名	石 浜 集 会 所	
旭が丘	H29. 7. 20	13名	旭が丘集会所	
上 五	H29. 8. 25	9名	東北電力堀切集会所	
女川北	H29. 10. 17	11名	女川住宅集会所	
上 四	H29. 10. 21	13名	さくら集会所	
針 浜	H29. 10. 31	8名	針 浜 集 会 所	
大 沢	H29. 11. 13	5名	大沢安住集会所	
上 三	H29. 12. 7	6名	旧子育て支援センター	
大原北	H29. 12. 8	10名	コミュニティプラザ	
小乗浜	H30. 1. 19	10名	小 乗 集 会 所	
浦宿一	H30. 1. 23	13名	浦宿一区集会所	
浦宿二	H30. 2. 15	10名	浦宿二区集会所	
浦宿三	H30. 2. 23	12名	尾田峯集会所	
西 二	H30. 3. 9	7名	西 区 集 会 所	

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎地域づくり会議において、課題を住民と把握・共有できた。
- 課題へのアプローチについては具体的に描けていない。

(9) 生活困窮者世帯に対する自立支援

①関係機関との連携強化による、生活困窮者世帯の早期発見

【取組み】

○情報提供などを行い、関係機関との連携を図った。

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎制度の狭間にいる困窮者につながる事ができた。
- 困窮者の早期発見には至っておらず、生活支援コーディネーターやここから支援員等、他機関との連携を図り、セーフティネットに陥る前の発見を目指す。

②個々の状況下にあわせた支援

【取組み】

- 個々の状況を把握した支援の実施
 相談受付4件(面談2件・電話2件)
- 相談者数6名
- 支援内容
 - ・食糧支援6名
 (提供先:おてらおやつクラブ・地域共生創造財団・町内企業・住民)
 - ・福祉サービス利用援助1名

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎関係機関との連携により、切れ目なく支援につなげることができた。
- 生活困窮者に対する支援のあり方について検討する必要がある。

③生活福祉資金や生活安定資金貸付制度による支援

【取組み】

貸付等に関する相談支援

相談総数		貸付	福祉資金	安定資金	援護費	見送り	事由
16件	内訳	8件	5件	0件	3件	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・他方優先 ・町外在住 ・要件等 ・対象外
		償還等 8件	内容 ・償還計画について ・納付書記載の金額の変更 ・償還方法の変更 等 ⇒県社協へ報告・共有				

生活福祉資金貸付調査委員会及び生活安定資金運営委員会の開催

会議名	内容
生活福祉資金貸付調査委員会及び生活安定資金運営委員会	平成29年度の貸付状況の説明

生活福祉資金の債権管理業務状況

	平成29年度当初		平成30年3月末状況						
生活福祉資金	貸付件数	償還残額	件数	年間償還額	償還残額	内訳	元金	3,163,294	
	6件	10,549,131	6件	206,000	10,571,920		貸付利子	158,520	
							延滞利子	7,250,106	
	平成29年度当初		平成30年3月末状況						
特例緊急小口資金	貸付件数	償還残額	件数	元金	延滞利子	合計	償還完了件数	6件	
	52件	8,344,256	46件	5,398,920	2,548,718			7,947,638	ゼロ償還件数
									19件

生活福祉資金借入世帯等の実態調査の実施状況

- 専任職員の雇用により、平成29年12月から訪問調査を実施、償還指導を行った。

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎貸付には至らずとも、相談内容に応じた既存の制度につなげることができた。
- 金銭の給付では根本的な解決にならず、困窮に戻らぬよう家計支援が必要。

生活安定資金の債権管理業務

平成 29 年度当初		平成 30 年 3 月末状況			
貸付件数	貸付残額	新規貸付件数	新規貸付金額	償還完了	貸付残額
10 件	467,000 円	0 件	0 円	1 件	346,000 円

生活安定資金借入世帯等の実態調査の実施状況

○専任職員の雇用により、平成 29 年 12 月から訪問調査を実施、償還指導を行った。

【取組みに関する評価及び課題】

●連帯保証人が必要のない貸付制度の検討が必要。

④緊急一時援護費の支給（生活援護費・災害見舞金）

【取組み】

申請件数	申請額	支給額
3 件	60,000 円	60,000 円

【取組みに関する評価及び課題】

●金銭的な支援だけでなく、食糧支援なども併せた支援が必要。

⑤生活困窮者自立支援制度による就労準備支援事業の職場体験への協力

【取組み】

○受入実績なし

【取組みに関する評価及び課題】

●職場体験への協力につなげるには、ひありんくとの協働関係の構築が必要。

(10) 防災学習の推進

地域住民と共に地域支え合いマップを作成し、要援護者の情報を共有する

【取組み】

○地域づくり会議で地域支え合いマップの作成と要援護者情報の作成を促した。（大原北）

【取組みに関する評価及び課題】

◎地域支え合いマップの作成と要援護者情報作成を促すことができた。

●作成の促しにとどまったため、次年度は大原北区と協働で取り組み、他地区へ波及できるようにする。

(11) 災害ボランティアセンター運営体制の見直し

震災時対応の検証結果を平時の組織内部体制の見直しへつなぐ

【取組み】

○検証結果の内容を基にし、テーマ別での意見交換を職員研修として実施。

○平時の業務の見直しと併せて体制づくりを進める。

【取組みに関する評価及び課題】

◎緊急時の連絡体制が構築され、警報発令時に適切に運用されており、災害時の備えにつながった。

- 災害時の行動マニュアルの整備が必要。

その他

(1) 共同募金事業への協力

①共同募金運動（赤い羽根運動募金）への協力

【取組み】

種 別	目標額	募金額	件 数	達成率
戸 別 募 金		862,592 円	1,770 件	
街 頭 募 金		115,780 円	1 件	
学 校 募 金		9,170 円	3 件	
職 域 募 金		14,500 円	2 件	
イベント募金		51,646 円	3 件	
個 人 募 金		17,435 円	10 件	
自 動 販 売 機		283,567 円	1 件	
そ の 他		16,262 円	3 件	
合 計	1,500,000 円	1,370,952 円	1,793 件	91.4%

赤い羽根街頭募金への協力

実施日	実施場所	参加者	募金額
H29. 9. 24	女川駅前及びシーパル ピア女川周辺	34名 共募会長、共募奉仕委員 14名 民生児童委員 19名	115,780 円

○PR活動の強化として募金箱の設置を行った。（大原北区ふれあいカフェ・きらら女川）

【取組みに関する評価及び課題】

◎ニヶ所だけのPRとなったが効果があった。

- 次年度以降さらなるPR活動の場として募金箱の設置を増やす予定。

②共同募金委員会への支援

【取組み】

○会の目的を踏まえた活動が実施できるよう支援。

【取組みに関する評価及び課題】

- 委員会の組織化を図り、住民への協力を請うことで募金活動への協力を図る。

(2) その他、各種分野への取り組み

①介護保険事業における生活支援体制整備事業との連携

【取組み】

○健康福祉課との定例会議

○生活支援コーディネーター定例会議

【取組みに関する評価及び課題】

◎生活支援コーディネーターの定例会議で活動の振り返りを行い、翌月の活動へ反映させていくことを繰り返し行うことで、コーディネーターの資質向上と活動の活性化を図ることができた。

●生活支援コーディネーターの認知度は低い状態のため、引き続き活動の周知を図る。

②高齢者・障害者等の地域活動支援に向けた事業所等との連携

【取組み】

- きらら女川・うみねこ園交流会
- 女川町老連の会員特典の活用
- うみねこ園のシーパルピア女川の清掃活動
- 大根とサツマイモの収穫（東北電力PRセンター）
- ゆぼっぼの入浴会
- ユニバーサルスポーツ体験
- イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン新聞袋づくり
- 陶芸教室

【取組みに関する評価及び課題】

◎うみねこ園の地域活動が多様な事業所との協働で実施された。

●高齢者の地域活動支援やうみねこ園利用者以外の障がい者等、地域活動支援に幅広く取り組むことができず、対象者が限定的だった。

③特別支援学校女川高等学園・特別養護老人ホームおながわ・きらら女川との相互支援

【取組み】

- 女川高等学園の防災事業の協働
- おながわ秋刀魚収穫祭実行委員会組織での救護医療福祉部会における特養おながわ職員との協働
- 女川高等学園放課後ボランティアのコーディネート
- 女川高等学園カフェとの連携・協働
- きらら女川地域食堂の周知支援
- 女川高等学園ゲストティーチャーのコーディネート

【取組みに関する評価及び課題】

◎各事業所の地域貢献活動に協力することができた。

●地域貢献活動の内容について十分協議することが必要であり、地域のニーズに基づいた活動につなげていくことが求められている。

平成 29 年度
ボランティアセンター年間活動報告書

1.	ボランティア活動	150 件
2.	ニーズ受付	55 件
3.	ボランティア活動受け入れ要請	24 件
4.	団体活動支援	174 件
5.	地域活動支援	101 件
6.	個人支援	29 件
7.	ボランティア新規登録者	7 件
8.	ボランティア保険加入	44 件
9.	行事保険加入	12 件
10.	事業評価	

1. ボランティア活動

地域・団体・個人からのニーズに町民ボランティアをコーディネートした。中でも団体からの依頼が多く、継続的なニーズが町民ボランティアの活動件数の増加につながった。

町外からの復興支援活動は年々減少傾向にある。

①ボランティア活動件数／活動人数（※カッコ内は昨年比）

月	活動件数			活動人数		
	町外	町内	合計	町外	町内	合計
4	2	1	3	2	1	3
5	2	12	14	34	30	64
6	0	10	10	0	27	27
7	1	6	7	1	23	24
8	3	4	7	126	15	141
9	0	16	16	0	87	87
10	0	11	11	0	36	36
11	0	10	10	0	35	35
12	0	13	13	0	45	45
1	0	8	8	0	28	28
2	0	23	23	0	76	76
3	0	28	28	0	74	74
合計	8(-11)	142(+23)	150(+12)	163(-50)	477(+74)	640(+24)

②カテゴリー別ボランティア活動数

カテゴリー	数	カテゴリー	数	カテゴリー	数
交流	41	送迎	12	生活支援	5
芸能	28	イベント手伝い	11	事業協力	3
作業	27	清掃	6	修理	2
託児	15				
合計					150 (+12)

③支援先別ボランティア活動数

団体	地区	個人	合計
123	21	6	150(+12)

2. ニーズ受付

団体・地域・個人とも減少した。

①カテゴリー別ニーズ件数

カテゴリー	数	カテゴリー	数	カテゴリー	数
芸 能	15	交 流	3	講 師	2
イベント手伝い	12	清 掃	2	作 業	2
託 児	8	送 迎	2	修 理	1
生活支援	7				
合 計					55 (-20)

②依頼元別ニーズ件数

団 体	地 区	個 人	町 外	合 計
41(-5)	9(-6)	5(-4)	0(-5)	55(-20)

3. ボランティア活動の受け入れ要請

町内団体との関係づくりに努めたことから、要請が増えている。町外からの要請は昨年度と同程度の規模となった。

①カテゴリー別活動受け入れ要請件数

カテゴリー	要請数	受け入れ	調整不可
交 流	8	4	4
芸 能	6	3	3
講 師	4	0	4
作 業	4	3	1
修 理	1	1	0
清 掃	1	1	0
合計	24(+8)	12(+2)	12(+6)

②依頼元別活動受け入れ要請件数

町 外	町 内	合 計
14(±0)	10(+8)	24(+8)

③復興支援活動の内訳

継続支援	新 規	合 計
7(-2)	7(+2)	14(±0)

4. 団体活動支援

45の様々な団体に対して支援を行い、主にボランティアの派遣要請に応えた。

①カテゴリー別団体支援件数

カテゴリー	数	カテゴリー	数	カテゴリー	数
ボランティア派遣	123	活動支援	6	周知協力	2
機材貸出	26	講師対応	4	事務支援	2
資材提供	7	会議参加	3	情報提供	1
合 計					174(+41)

②団体別支援件数

カテゴリー	団体名	数	合計
女川町	女川町地域包括支援センター	12	45
	女川町社会福祉協議会	7	
	女川町地域医療センター通所リハビリテーション	5	
	女川町健康福祉課	4	
	女川町子育て支援センター	3	
	女川町役場町民生活課	3	
	女川町地域医療センター老人保健施設のぞみ	2	
	じょっこおながわ	1	
	女川町保健センター	1	
	女川町役場生涯学習課	1	
	女川町役場産業振興課	1	
	女川町役場企画課	1	
	女川町役場復興推進課	1	
	放課後児童クラブ	1	
	女川町第四保育所	1	
	復興コーディネーター J V	1	
学 校	女川高等学園	7	15
	女川小学校	7	
	女川中学校	1	
ボランティア 団体	女川町ボランティア友の会	4	12
	おながわの鳴り砂を守る会	4	
	おながわ桜守りの会	3	
	リアルアイ	1	
障がい者施設	きらら女川	32	37
	障がい者コミュニティサロン k a i	3	
	うみねこ園	2	
高齢者施設	永楽会おながわ	31	34
	永楽会グループホームのどか	2	
	ぱんぷきん女川ステーション	1	
子育てサークル	マザーズリング	10	10
趣味の サークル	語りの会杉っこ	2	7
	恵謡会	2	
	舞踊会	2	
	桃菊会	1	
イベント 実行委員会	女川町復幸祭実行委員会	3	5
	女川秋刀魚収穫祭実行委員会	1	
	女川福幸丸	1	
商工関係	丸磯建設	1	4
	女川みらい創造	1	
	女川町観光復興グループ	1	
	おかしやまがりかど	1	
神 社	熊野神社氏子総代会	2	3
	白山神社氏子総代会	1	
町外団体	シナプス 40	1	2
	セクト	1	
合 計			174(+41)

5. 地域活動支援

仮設住宅終結の過渡期で仮設支援が減り、新規行政区や高台移転を完了した地区との関わりが増えてきている。

機材貸出し・芸能ボランティア派遣・講師対応等、地域の活動の充実に積極的に活用されている。

①カテゴリー別地域支援件数

カテゴリー	数	カテゴリー	数	カテゴリー	数
機材貸出し	48	資材提供	7	周知協力	3
ボランティア派遣	21	事務支援	3	会議参加	3
講師対応	11	イベント協力	4	情報提供	1
合 計					101(-5)

②地域別支援件数

地 区	数	地 区	数	地 区	数
大沢区	7	西二区	5	小乗浜区	5
浦宿一区	2	多目的仮設	4	宮ヶ崎区	7
浦宿二区	1	野球場仮設	1	石浜区	4
針浜区	1	大原北区	8	尾浦区	1
旭が丘区	5	大原南区	11	竹浦区	2
一小仮設	2	女川北区	1	出島区	1
上三区	12	女川南区	1	寺間区	1
上四区	3	清水二区	2	バイパス仮設	2
上五区	3	清水仮設	3	蟹田・内田仮設	6
合 計					101 (-5)

6. 個人支援

個別支援件数が大幅に増加した。直接相談は依然多くないが、地域住民・民生委員からの情報提供から繋がることが増えており、地域の見守り活動や繋がりが充実することによる、住民同士の支え合いや、適切な支援要請になっていく兆しと言える。

同時にセンターの認知度を高める努力・工夫は今後も必要である。

カテゴリー別個人支援件数

カテゴリー	数	カテゴリー	数	カテゴリー	数
物資提供	7	情報提供	3	連絡調整	2
ボランティア派遣	6	支援調整	3	機材貸出し	1
相談対応	4	生活支援	3		
合 計					29 (+16)

7. ボランティア登録

転居や死去により、登録解除があったため、ボランティア全体の登録者数は微増にとどまったが、比較的若い世代からの積極的な応募があった。

ボランティア登録者数

登録解除者	新規登録者	全登録者数
9	16	93 (+7)

8. ボランティア保険加入

ボランティア保険加入件数

個人加入	団体加入	合計人数
33(-10)	11(-1)	175(-3)

9. 行事保険加入

行事保険加入者数

加入件数	合計人数
12(+3)	387(+67)

10. 事業評価

(1) コーディネート機能（相談・登録・斡旋・連携・協働）

①継続したボランティア派遣

介護予防教室の送迎・託児・麻雀の相手・加工作業等、各団体からの継続したボランティアニーズに登録者を安定的に派遣した。

②社協事業や福祉教育への協力ボランティアの活用

社協のふれあい交流会や女川小学校の防災・福祉の授業で、積極的にボランティアを活用した。住民と協働で事業を実施することで、内容を充実させ、担い手を育み、世代を超えた相互交流を生み出す機会となった。

③町外支援のコーディネート

新しく立ち上がった行政区の初期段階における人と人との繋がりづくりになるように、町外ボランティアによる支援活動をコーディネートして、コミュニティ形成を後押しした。

以後は手厚い支援の継続ではなく、住民主体による活動の活性化を促すことが必要である。

④個人宅へのボランティア派遣

高齢者宅の家具の移動等、生活支援ニーズを地域の支え合いで解消できるように、区長や地区内の登録ボランティアに調整した。

⑤新集会所こけらおとしの芸能ボランティア派遣

高台移転等で、新たに建設された集会所のこけら落としに、町内芸能団体の要望があり、各団体をコーディネートした。アトラクションがあることで、参加者の増進やステージによる一体感を産み、コミュニティづくりの門出に貢献いただいた。

⑥仮設集会所の不要物品の斡旋

自治会による仮設集会所の物品整理の際に、継続して利用できるものを引き取って活用してもらいたいと複数相談があり、主に新行政区への再配分をコーディネートした。

以後、女川町で要望を申請する仕組みが出来、こちらで斡旋する必要はなくなった。

⑦ボランティア活動を介した就労支援

若い世代の未就労の生活困窮者に有償ボランティア活動をコーディネートすることで、一般就労へのステップアップとして、社会経験と若干の収入を得ていただくことが出来た。以後、就労支援窓口に繋ぎ、協働で当事者の歩みをバックアップしている。

町内に有償ボランティアの実践の場が乏しく、他機関と連携した開拓が必要。

⑧お茶会への出張講座派遣・講師対応

通年で支援してきた講座活用型のお茶会は安定化に至り、仮設では終了を迎えた。今後新たな地区でお茶会の立ち上げが相次ぐことが予想され、これまでのノウハウを活かして、住民による自立した運営を前提にした支援を心がけたい。

⑨町民ボランティア登録推進と育成

応募や、声掛けに応じていただく形で意欲的な若手世代を含む16名の新規登録者に恵まれた。活動の実践でやりがいを感じていただき、横のつながりを促して、研修でフォローアップすることで、実践と福祉意識に裏付けされたボランティアの強化を図りたい。

⑩町内大型イベントへの場内見回りボランティアの配置と福祉体制の整備

通年の取り組みに定着した復幸祭および秋刀魚収穫祭の福祉ボランティア体制に、新たに車イスの貸出しを盛り込んだ。実際に多くの利用実績があったことから、屋外イベントに車イスのニーズがあることがわかり、今後も継続することとなった。ボランティア・実行委員会・来場者に対する福祉意識啓発の効果も見込まれる。

(2) 情報提供活動

①ボランティアセンターウェブサイトの更新

ボランティアセンターのブログをボランティアセンターだよりの記事を転載する形で更新した。講座の参加者募集やボランティア募集等、告知には活用してこなかったため、今後取り組んで、実際の効果を計りたい。

②ボランティアセンターだよりの活用

事業紹介・実施報告・ボランティア募集など、各種情報を誌面にて発信した。ボランティア紹介記事の連載を継続して、身近な人物が与える親しみやすさで、ボランティア活動の敷居を下げることを目指した。

現状の誌面構成では思うように反響が得られなかったため、あらためて字数やレイアウトを見直し、より読みやすく、伝わる誌面づくりに取り組みたい。

③問い合わせ対応

電話や対面で受けるさまざまな問い合わせに対応した。相談内容を過不足なく聞き取り、情報提供やボランティアの派遣、専門職へのコーディネート等、適切な関わりに努めた。

多様な相談に対応するには、日常的な情報収集と、繋ぎ先を確保していく必要がある。

④機材の貸出し

通年の実施で活用が定着しており、利用件数はさらに増加している。新行政区にはあらためて情報提供していく必要があったが、助成金を活用した物品の購入も各地区で進んでおり、貸出し物品の劣化も著しいことから、一定の役割を果たしたと言える。

(3) グループ活動の支援

①活動先の斡旋

各団体の活動の場を地域・施設等にコーディネートし、実施の際には必要に応じた支援を行った。

②活動周知

さまざまな団体の活動やメンバー募集を掲示板やボランティアセンターだよりの誌面にて周知した。さらに広く知らせたい有意義な活動は社協だよりの表紙に掲載した。

③ボランティア派遣

様々な団体の主催事業にボランティアを派遣して、幅広い町民の参画による活動の広がりを支援した。

④情報提供

活動に必要な情報を要望に応じて提供して、活動を支援した。ボランティア友の会では、会の歴史について情報を収集して、会員向けの研修として提供した。

横のつながりによる団体間の支え合いや協働を促すために、各団体それぞれの活動について情報共有する場も必要である。

(4) 養成・研修

ボランティア入門講座

震災後初めてとなるボランティア入門講座を実施した。未経験の入門者からベテラン活動者のフォローアップを兼ねて、多様な7つのプログラムを用意した。

「無償の活動がボランティア」等、単純な理解に留まらず、自発的に社会の課題解決を考え、実践するボランティアの意義を共有して、基礎的な技術を学んでいただく機会となった。

周知・案内に十分な時間が取れず、多くの参加者を呼び込むまでには至らなかった。また平日開催では現役世代の参加しづらさがあり、来年度の実施は土日開催で検討する。

女川町地域包括支援センター

1 一般介護予防事業

(1) 介護予防普及啓発事業

活動的な高齢者を対象として、生きがいを持ちながら地域の中で自立した生活を送ることができるよう努めた。また、住民自身による活動ができるように支援や活動を支える人材の発掘・育成を老人クラブや福祉活動推進員等を中心に行い、元気な高齢者が支援を必要とする高齢者への生活支援の担い手としての社会参加につなげることができるよう介護予防事業の推進と普及啓発に力を入れた。

また、個人それぞれの身体機能で地域の中で自立した生活が送れるように、専門職による助言や指導が行える機会を作った。

● 広報・啓発事業

介護予防に資する基本的な知識の普及・啓発を図るための事業や広報活動を行った。

【取組み】

○遊びリレーション【講師：健生（株）】

対象地区	結 果		合 計
・在宅エリア 18ヶ所 (延べ 109回) 月1回：浦宿1 年6回：大沢・針浜・浦宿2・ 浦宿3・西2・上3・ 上4・上5・旭が丘・ 大原北・宮ヶ崎・ 日蕨・石浜・大原南・ 女川南・女川北・ 出島 ・仮設エリア 3ヶ所 (延べ 24回) 月1回：蟹田内田・小乗 年6回：野球場	前期	68回 延べ 665人 ※今年度より石浜・大原南・女川南・女川北区で開始。	133回 1,216人
	後期	65回 延べ 551人 *野球場、蟹田・内田は11月で終了。	
	評価	全体的に参加者はほぼ固定。 仮設から公営住宅へ転居した後にも参加を呼び掛けるが、若干減少した。また転居後にはこの事業しか交流する機会が持てないという方々は、日中の活動量が減ったという意見もあり。 転居先でも継続的に事業参加が行えるように、地域のお世話役を通じて参加勧奨を図っていく必要がある。	

○ふまねっと【講師：ぱんぷきん（株）】

対象地区	結 果		合 計
・在宅エリア 8ヶ所 (45回) 年6回：大沢・針浜・上5・ 大原北・石浜・大原南・女川南 年3回：女川北 ・仮設エリア 1ヶ所 (3回) 年3回：野球場	前期	24回 延べ 192人 ※遊びり同様今年度より石浜・大原南・女川南・女川北区で開始。遊びりより参加者低迷。	48回 354人
	後期	24回 延べ 162人 *野球場は終了	

	評 価	70代前期の参加者が多い地区と80代の参加者が多い地区とで参加に対する意見に差があり、実施事業所へ地域の特性に合わせたやり方で実施して頂いた。(年齢、人数に合わせたリズム等。) ささえあい事業として実施されたところに参加されていた方々は継続実施を望んだことから、30年度に向けて開催地の協議を行った。「集いの場」の継続は必要と思われる。
--	--------	--

○各種事業等を通し普及啓発

- ・自立お茶会、単位老人クラブでの啓発
- ・相談協力員研修（民生委員児童委員定例会での啓発）
- ・各エリア会議、保健福祉医療調整会議での啓発

○女川広報に地域包括支援センターだよりのページとして毎月掲載。

「今月のいきいきさん」紹介。個人だけでなくご夫婦、地区の中での有志でお元気な方を紹介。最近住民の方から、紹介して欲しい方の情報が入るようになった。

○社協だよりに毎月遊びリレーション日程を掲載し、周知を行った。

○福筋クラブ

昨年度の二次予防事業の修了者に対し、日常生活での運動に対する取り組みを継続し実践することにより、生活機能（活動性）の維持及び参加者相互による介護予防意識の向上を図った。また30年度のクラブの継続についての意向を確認したところ、ほぼ全員が継続希望である。自主化を促す意味で、お世話役が可能かどうか聞き取りしたところ、2、3人しか可能という声がなく、元気な方でもお世話役となると引いてしまう傾向にある。希望のあった方を中心にサポートし、徐々に自主化へ向けての支援を行うこととした。

実施回数	参加者数		
各会場 月1回	総合体育館	4月～9月	実14人 延48人
		10月～3月	実12人 延52人
	旧子育て支援センター	4月～9月	実22人 延70人
		10月～3月	実18人 延82人

○体力測定&げんきアップ教室

日 程	内 容	参加人数
H29. 7. 4	<p>げんきアップ教室開催 講師：仙台大学</p> <p>高齢者の健康づくり・介護予防の意識を高め、一人一人の取組から仲間での取り組みが増えることを目標に、2月22日に実施した老人クラブ会員体力測定結果説明会を行った。仙台大学講師から個人および老人クラブごとの結果と、今後の取り組みに反映できる実技紹介と助言指導をいただいた。</p>	<p>単位老人クラブ 8クラブ 56人 * 2月22日 体力測定参加者 66人</p>

H29.10.9	<u>スポーツ体力測定への参加呼びかけと実施協力</u> 主催：生涯学習課 健康をつくる町民の集いと同日開催ということで、会場が分散していることから事業参加も参加者の選択に任せ、事業周知についての課題が残ったと思われる。	65歳以上の 高齢者 11人 全体参加者 69人
H30.3.12	<u>講座及び実技</u> 「自分のことは自分でできる生活のために ～60歳を過ぎてからの体力づくり・筋力維持の方法～」 講師：仙台大学保健福祉学科 橋本実教授 松浦理沙新助手 健康づくりサポーター（学生）3名 ＊結果については「ぴんぴん元気推進塾フォローアップ研修」に記載。	25人

○介護予防普及啓発パンフレット配布

女川町地域包括支援センターの役割や介護予防に関する相談機能とその活用についての内容を掲載し、パンフレットを作成した。配布については30年度女川広報に合わせ、全戸配布。

○包括出前いきいき講座

老人クラブお茶会、遊びリテーション時のお茶会、地区自立お茶会時に合わせて要望のあったところで実施。事業PRしながら行った。

*前期（4月～9月） 後期（10月～3月）

	日程	地区・団体等	内 容	参加人数
前 期	H29.5.30	大原北区 老人クラブ	お誕生会開催時での健康講話	17人
	H29.5.18	旭が丘 老人クラブ	定例お茶会時での健康講話	30人
	H29.6.9	大原北区 婦人部研修会	事業計画の一環として研修会を企画。 「介護保険サービスの利用の仕方」	17人
	H29.8.28	大沢地区	自立お茶会時での健康講話	10人
後 期	H30.2.8	上3区	自立お茶会での脳トレ喫茶	15人

単位：円

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金 事業参加費
介護予防普及啓発事業 ・遊びリテーション ・ふまねっと ・広報啓発 ・福筋クラブ ・元気アップ教室 ・普及啓発事業 ・出前いきいき講座	4,050,285	4,050,285	0	0

(2) 地域介護予防活動支援事業

○介護予防サポーター育成講座の実施

住民主体の介護予防活動の育成と支援として、介護予防に関する知識・技術を習得し、自ら体験し実践できるように取り組んだ。また、その体験を地域の活動の中で活かすことができる人材を育成し、地域の担い手となり地域力の向上を目指し実施した。

【取組み】

地域お茶会等お世話役育成講座「ぴんぴん元気推進塾」(全4回)

	日 程	内 容	担当	参加者
1回	H29. 8. 7	元気な源、筋力づくりと認知機能リフレッシュ体験	健康運動士	17人
2回	H29. 9. 6	元気な源、体づくり (栄養・食事) ～間違った食事のコントロールしていませんか?～	栄 養 士	14人
3回	H29. 10. 5	元気な源、口の働き ～いつまでもおいしく自分で食べれるために～	歯科衛生士	10人
4回	H29. 11. 9	地域が元気でいられるために ～つながって支え合おう～	社 協 職 員 包 括	14人

【結果・評価】

地域の福祉活動推進員、シルバーリーダー等が参加。地域の担い手として参加いただいた。受講者が地域で活動できる場を提供したり、新たに場を作っていくことも必要と感じる。また、受講者通しのつながりが継続できるようにフォローしていくことも必要と感じる。

○地域お茶会等お世話役育成講座「ぴんぴん元気推進塾」フォローアップ研修

10月～3月	第1回	日 程	内 容	講 師	参加者
		H29. 12. 21	齋藤先生の認知症講話& 「おばあさんの物忘れ・・・」寸劇 (宮ヶ崎老人クラブ四つ葉会)	・医療センター齋藤センター長 ・宮ヶ崎老人クラブ 四つ葉会有志	72人
	結 果	介護予防サポーターとして「認知症」の知識を深めていただくことと、昨年度認知症サポーター養成講座を受講されたサポーターの活動の一環として今年度育成した結果の披露する場として開催した。 地域の医師からの講座と寸劇を通じた啓発ということで、多くの方が参加された。その中でサポーターとして登録をして良いという方が46人。次年度はさらにサポーターとしての地域での活動への参加を支援していく。			
	第2回	日 程	内 容	講 師	参加者
		H30. 3. 12	「自分のことは自分でできる生活のために ～60歳を過ぎてからの体力づくり・筋力維持の方法～」 *げんきアップ教室に合わせて実施	仙台大学保健福祉学科 橋本 実 教授 松浦理沙新助手 健康づくりサポーター(学生) 3名	25人
	結 果	前半は橋本教授から健康寿命と健康づくりについての講話をいただいた。予防的観点における日常の運動や食生活上の見直しして欲しい事項など紹介いただき、後半は松浦新助手から日常生活で行って欲しい運動を3種目実技指導をいただいた。個人的に、地域で集まった時にもできるということで推奨いただいた。			

単位：円

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金 事業参加費
地域介護予防活動支援事業 ・地域活動組織の育成・支援事業 ・地区リーダー育成「元気推進塾」	550,320	550,320	0	0

(3) 地域リハビリテーション活動支援事業

介護予防の取組を機能強化するため、通所、訪問、地域ケア会議、住民主体の通いの場などへのリハビリ専門職等による助言等を活用できるように取り組んだ。

○個別訪問

	実績（人数）	内 容
4月～9月	実1人 延べ 2件	住宅改修（手すりの設置）への評価と助言
10月～3月	実5人 延べ 6件	介護認定前の訪問リハビリによるサービス導入勧奨
評 価	認定結果が出てからスムーズにサービス利用の調整を行うことができた。 今年度は個別対応のみであったが、地域課題に対するリハ的な視点での意見をいただくことも依頼していく。 また、お茶会等でのリハ講座は生涯学習課の出前講座を活用することになった。	

単位：円

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬	補助金 事業参加費
地域リハビリテーション 活動支援事業	53,224	53,224	0	0

2 包括的支援事業

●総合相談・支援事業

高齢者本人、家族や地域のネットワーク機関等を通じた様々な相談に対応した。

相談内容によっては個別ケア会議を開催し、支援の方向性を共有しながら進めるケースもあった。また多職種協働による会議の中で紹介されたケースや災害公営住宅入居に伴う健康調査から相談があったケースにも対応した。（新規で相談があったものに対する実績を計上）

① 相談対応件数

（単位：件）

相談形態		来 所	電 話	訪 問	合 計
相談件数	4月～9月	55	81	85	221
	10月～3月	62	91	95	248
計		117	172	180	469

② 相談内容（重複有）

（単位：件）

相談内容		介護予防事業	総合相談支援業務	権利擁護業務	合計
件数	4月～9月	1	220	0	221
	10月～3月	1	247	0	248
計		2	467	0	469

③ 相談概要

ア. 対象者

（単位：人）

相談者数		第1号保険者	第2号保険者	合計
件数	4月～9月	116	15	131
	10月～3月	114	13	127
計		230	28	258

イ. 相談者（重複有）

（単位：人）

	本人	家族	民生委員 児童委員 地区役員	健康 福祉課	医療 機関	介護 事業所	ここから 支援員 生活支援 コーディネーター
4月～9月	21	40	13	20	18	10	6
10月～3月	12	44	11	22	13	13	5
	その他	合計	*健康調査で訪問した場合は、相談元は1件であるが、対象者は訪問先で複数の場合がある。				
4月～9月	7	135					
10月～3月	7	127					

ウ. 相談内容（重複有）

*下段 10月～3月実績

（単位：人）

介護(予防)サービス	介護予防事業	福祉サービス	権利擁護	医療相談
91	2	17	1	29
85	2	5	0	33
認知症	その他	合計		
39	23	202		
39	35	199		

●権利擁護事業

①相談延件数

(単位：件)

相談形態		来 所	電 話	訪 問	ケース検討 担当者会議等	合 計
相談 件数	4月～9月	0	0	1	1	1
	10月～3月	0	0	1	1	2
計		0	0	2	2	3

②相談内容

(単位：件)

	4月～9月	10月～3月	合 計
ア 高齢者虐待の相談	0	1	1
イ 成年後見制度活用の相談	1	1	2
ウ 消費者被害の相談	0	0	0

エ. 困難事例（重複有） *下段 10月～3月実績

(単位：件)

支援拒否	認 知	知 的	急激な ADL低下	家族・親族が近く にいない・独居	家族・親族 の問題	医療の問題
0	0	0	2	2	0	0
0	1	0	0	1	1	0
サービス 依存	精 神	アルコール	経済困窮	多重債務	苦 情	サービス 利用調整
0	2	0	0	0	0	2
0	1	0	1	0	0	1
その他	<p>傾向として、認知機能低下に伴い運転への心配をする相談、家族支援が困難な状況にある独居、老々介護や認々介護による施設利用の相談が増加傾向にある。また、がん患者の相談も増えており、疾患の特徴として治療による状態の落差が大きいため認定のタイミングやサービス調整の難しい部分がある。後期において高齢者虐待の疑いの通報あり、サービス利用の調整で介護負担を軽減する対応で落ち着いたという事例があった。</p> <p>*新規対応ケースは実2件（延べ8件）、この他に継続的なケース対応もあり。</p>					

【評価】

身寄りのいない、精神疾患をかかえた独居高齢者の経済的な管理や今後の生活の拠点として施設入所の意向がある事例を通し、後見制度の活用を進めていく対応の中で、法人後見としての社会福祉協議会の役割期待がますます増えていくことが予想される。

●包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

高齢者が住み慣れた地域で暮し続けることができるように、高齢者個々の状況変化に応じた適切なケアマネジメントを介護支援専門員が実践できるよう、介護支援専門員との情報交換や多職種との連携・協働を図った。また、介護支援専門員の技術向上のための日常的個別指導・支援困難事例等への指導・助言を行った。

【取組み】

① 介護支援専門員研修会

	月 日	事業名	内 容	人 数
4月～9月	H29. 7. 31	介護支援専門員研修会	ロコモティブシンドローム予防	29人
10月～3月	H30. 3. 14	権利擁護研修会及び介護支援専門員研修会	消費者被害を予防するための支援策	18人

②介護支援専門員の個別指導等 合計 1件

単位：円

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金 事業参加費
包括的支援事業 ・人件費（3職種） ・消耗品費	17,473,453	15,742,000	1,715,153	16,300

3 任意事業

(1) 家族介護支援事業

【取組み】

●まちなか相談会&介護相談

駅前のカマスを会場に毎月15日に開設したが、初回のみ利用者があり、その後利用がなかったため開催場所を検討し、9月からは「ゆぽっぽ」を会場に26日（風呂の日）に実施することにした。

(実施期間：10月～3月)

月 日	対応人数	内 容
H29. 10. 26日(木)	0	相談はなかったが、認知症の相談履歴がある方が入浴に来所されており、状況を把握できた。また地域の方々がゆぽっぽを会場に定期的な集まりを持っているということが把握できた。
H29. 11. 27日(月)	0	
H29. 12. 26(火)	0	
H29. 1. 26(金)	3	健康チェックの対応。移動動作が大変な方への見守り。傾聴。

H30. 2. 26 (月)	6	① 認知症予防についての相談 ② 地区行事以外の活動をしたい、ボランティアの相談等
H30. 3. 26 (月)	6	生活状況、健康についての把握と傾聴。包括支援センター機能についての周知等

(2) その他の事業

●認知症サポーター等養成講座

①認知症サポーター養成講座

目 的：認知症の理解を図り地域での支えあいを推進する。

目 標：認知症に関する正しい理解や認知症の方に対する接し方を身につけ、地域での暮らしを支える人材を育成。

内 容：認知症疾患についての理解・対応の仕方・認知症サポーターの役割

期 日	対 象 者	参 加 者
H29. 5. 26	区 長 (地区支部長会議)	24 人
H29. 9. 12	区 長 (共同募金会会議)	16 人
H29. 9. 21	県立支援学校 女川高等学園 1 年生	25 人 (教員 5 人)
H30. 2. 5	女川中学校福祉委員会	11 人 (教員 2 人)
H30. 3. 15	大原北区婦人部・シルバーリーダー	23 人

【結果】

自治会長への呼びかけを行うが自発的に地区からの申し込みは少なく、新しく自治会が立ち上がったところには包括から自治会長へ開催目的や受講によるメリット等説明しながら開催調整を行うこととした。

単位：円

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金 事業参加費
任意事業 ・まちなか相談会 ・権利擁護事業 ・認知症サポーター養成講座	45,706	45,706	0	0

4 認知症地域支援

●物忘れよろず相談所「ほっとカフェ」

目的：認知症の人が自分らしく暮らし続けられる。

目標：対象者が気軽に立ち寄れ、認知症やその介護などについて話をしたり、相談したりできる。

対象：認知症と診断されている方、もしくは心配されているご本人やその家族

内容：参加者同士及びスタッフとの交流ミニ脳トレ・レクリエーション

認知症や介護相談・認知症について学ぶ

*地域の活動者（民話ボランティア）や高澤司法書士による財産管理等の研修もカフェの中で行った。

実施方法：公共施設等を会場に、月1回、2ヶ所で実施。

◎平成29年度実施状況

実施場所	期 日	参加者	
		合計	内訳
運動公園住宅内 サブセンター ※最終金曜日 10:00～11:30	平成29年04月21日	9人	本人7人・家族2人
	5月19日	9人	本人7人・家族2人
	6月16日	8人	本人6人・家族2人
	7月21日	9人	本人7人・家族2人
	8月18日	6人	本人5人・家族1人
	9月15日	11人	本人9人・家族2人
	10月20日	12人	本人10人・家族2人
	11月17日	11人	本人8人・家族3人
	12月15日	9人	本人7人・家族2人
	平成30年1月19日	9人	本人8人・家族1人
	2月19日	12人	本人10人・家族2人
	3月19日	10人	本人6人・家族2人 その他2人
「カフェみんな」 永楽会特養おながわ内 ※第1水曜日 10:00～11:30	平成29年04月05日	5人	本人5人・家族0人
	5月10日	4人	本人4人・家族0人
	6月07日	4人	本人4人・家族0人
	7月05日	5人	本人4人・家族1人
	8月02日	6人	本人6人・家族0人
	9月06日	4人	本人4人・家族0人
	10月04日	6人	本人6人・家族0人
	11月01日	5人	本人3人・家族2人
	12月06日	7人	本人5人・家族2人
	平成30年1月10日	7人	本人7人・家族0人
	2月7日	7人	本人7人・家族0人
	3月16日	19人	本人5人・家族1人 その他13人

*永楽会職員が毎回参加。居宅ケアマネも時々来所された。

●認知症サポーターミニ劇団育成（認サポミニ劇団「四つ葉」）

目的：「認知症」についての普及啓発

内容：宮ヶ崎老人クラブ「四つ葉会」によるミニ劇団結成、寸劇活動。

※宮ヶ崎地区敬老会、介護予防サポーター育成講座で寸劇を実施。

◎劇団結成からの経過

期 日	内 容
5 月	宮ヶ崎老人クラブ「四つ葉会」へミニ劇団発足の打診
6 月～9 月	月 2 回練習
9 月 26 日	宮ヶ崎地区敬老会にて寸劇初披露
12 月	介護予防サポーター講座の中での寸劇を依頼 2 回練習
12 月 21 日	地域のお世話役育成「ぴんぴん元気推進塾」のフォローアップ講座にて寸劇披露
1 月 22 日	1 年の振り返りと今後の活動についての意見交換

【評価】

認知症サポーターの活動としての場の提供、また新たな場を共に作っていくことが今後多くの方への普及啓発につながると感じる。

●ケアパスの作成

認知症の人とその家族が、地域の中で暮らしていくために認知症の程度に応じた対応ができるように示した概念図を作成。（A4サイズ 6 ページ3つ折り編成）

30 年度全戸配布により認知症についての啓発を行う。

●認知症初期集中支援チーム活動

複数の専門職が認知症の疑われる人、家族に訪問を行い、アセスメントや家族支援などの初期の支援を包括的かつ集中的に行い、本人の自立支援のサポートを行う活動である。

- (1) 対象者：①医療サービス、介護サービスを受けていない者、また中断している者
②医療サービス、介護サービスを受けているが、認知症の行動・心理症状が顕著なために苦慮している者
- (2) チーム：女川町地域医療センター・女川町地域包括支援センター
- (3) 事業の流れ：①相談受理 ⇒ ②総合アセスメント ⇒ ③会議・訪問 ⇒ ④支援の実施
⑤モニタリング

○認知症多職種連携研修への参加

活動するにあたり、事業の進め方、各機関の役割等についての伝達講習に参加した。

○チームでの対応ケース 1 件

認知症のある高齢者独居の女性。医療、介護サービス等本人の意向によりつながっていない状態で介入。

介護認定およびサービス利用へつなぐことができ、認知症はあるが独居生活を継続できるように支援が開始できた。

●認知症地域支援推進員活動

認知症の人が、できる限り住み慣れた良い環境で暮らし続けることができるよう、関係機関につないだり、認知症の人や家族を支援する相談業務を実施した。

単位：円

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金 事業参加費
認知症地域支援事業費 ・ほっとカフェ ・ケアパス作成 ・認サポ劇団育成 ・認知症多職種連携研修 ・認知症初期集中支援チーム活動	807,071	807,071	0	0

5 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築

地域づくり会議として位置づけられている支えあい体制づくり事業でのサブセンターエリア会議等を活用し、多職種との連携を図りながら、個別支援と地域に対する関わりを相互に作用させ、住民課題や地域課題の解決に努め、多職種とのネットワーク作りや個別支援対応を行った。

区分	回数		
	4月～9月	10月～3月	合計
サブセンターエリア会議	6エリア 23回	6エリア 19回	12エリア 42回
保健医療福祉調整会議	6回	6回	12回
個別支援ケア会議	8回	9回	17回
地域づくり会議	5回	10回	15回

単位：円

項目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金 事業参加費
地域ケア会議推進事業	0	0	0	0

*講師等の活用がなかったため、事業費支出なし。

6 指定介護予防支援及び新予防給付・日常生活支援

高齢者が介護サービスを利用しながら在宅で、地域で自分らしく生活ができるようにマネジメントを行った。また今年度より新総合支援事業へ移行が図られた後も混乱なくサービスが受けられ、高齢者が自分らしい生活を送ることができるように支援した。

また、新総合支援事業からの申込者はいなかった。(外出支援サービス(タクシー券)を同時に希望されるため、介護認定申請になる。)

●要支援1および要支援2の方に対する介護サービス利用のためのケアプラン作成・ケアマネジメント業務

< 3月31日現在累計 >

(単位：件)

		件数	認定区分内訳	
			要支援1	要支援2
契約件数（実件数）		99	37	62
内訳	包括担当	67	23	44
	居宅委託	32	14	18
給付管理件数（延件数）		1192	443	749
内訳	包括担当	800	291	509
	居宅委託	392	152	240

●各種作業・申請代行・サービス利用調整

①アセスメント・ケアプラン作成

区分		4月～9月		10月～3月		合計	
		件数	計	件数	計	件数	合計
基本チェックリスト	新規	26件	61件	20件	49件	46件	110件
	更新・変更	35件		29件		64件	
利用者基本情報	新規	32件	69件	14件	54件	46件	123件
	更新・変更	37件		40件		77件	
介護予防サービス・支援計画	新規	14件	63件	11件	51件	25件	114件
	更新・変更	49件		40件		89件	

②介護保険各種申請代行手続き

区分	件数		
	4月～9月	10月～3月	合計
要介護認定（新規・更新・区変）	111件	99件	210件
被保険者証等再交付	16件	15件	31件
居宅サービス計画作成依頼	27件	9件	36件
要介護度認定等情報提供申出	67件	61件	128件
負担限度額認定	2件	1件	3件
福祉用具購入費支給	3件	8件	11件
住宅改修費支給	4件	5件	9件
介護認定申請取下げ	1件	0件	1件
その他	1件	0件	1件
合計	232件	198件	430件

③福祉サービス等の利用調整

区 分	件 数		
	4月～9月	10月～3月	合 計
外出支援サービス助成券	151件	59件	210件
緊急通報システム	4件	0件	4件
老人ヘルパー派遣事業	0件	0件	0件
徘徊SOSネットワーク登録事業	0件	1件	1件
紙おむつ助成券交付事業	6件	9件	15件
訪問散髪料金助成券交付事業	0件	0件	0件
生活支援型配食サービス事業	12件	7件	19件
その他（医療介護連携情報シート）		3件	3件
合 計	173件	79件	252件

単位：円

項 目	事業費	財源内訳		
		委託料	介護報酬 (ケアプラン作成料)	補助金
指定介護予防支援及び 新予防給付・日常生活支援 ・人件費 ・事業費	6,552,781	0	5,149,100	1,403,681

【業務運営全体評価】

仮設住宅から災害公営住宅への異動が多い年度であり、震災により二度に渡る環境の変化の中でいかに普通に暮らし、安心した暮らしができるかが課題であった。それはまた、仮設にまだ残っている方にとっても、支えあいが希薄になるという環境での生活に不安がないようにしていくことも課題であった。

ご本人、家族、地域、エリア担当の職員（行政・社協・医療・事業所等）からの相談や健康調査上で気になった方への総合相談への対応を丁寧に行い、今後も地域を含めたケア会議を行いながらネットワークの強化を図っていくことが必要と思われる。

女川町地域活動支援センターうみねこ園

女川町及び石巻市より障害者地域生活支援事業サービス提供事業者の指定を受け、「地域活動支援センター」の適切かつ継続的に事業運営を図ってきた。本会で策定した（平成28年度3月）第4次女川町地域福祉活動計画と女川町地域福祉計画の基本理念である「一人ひとりの幸せが地域の支えあいとつながりで実現するまちおながわ」さらには女川町障害者計画・障害福祉計画の基本理念である「障害のある人もない人も町民すべてが安心して自立した暮らしができるまちおながわの実現」のもとに、本センター利用者が地域の中で安心して暮らすことができるよう、常に地域とのつながりを意識した活動内容で実施した。

1 地域活動支援センター事業利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	22	20	22	20	20	20	20	19	19	21	243日
実人員	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	
延利用者数	135	143	152	147	136	125	121	129	121	93	118	116	1,536人
事業費	財 源 内 訳												
	障害福祉サービス等 事業収入	就労支援事業収入		その他			うみねこ園 繰越金						
14,040,309	11,009,700		1,789,099			52,991					1,188,519		

【事業評価】

今年度は、長期入院中の利用者がいたことや、1月から保護者の健康状態の変化により短期入所サービスを利用する利用者がいたことで利用率や事業収入の減額につながる要因があったものの、全体的に個々の利用率が高かったことや、10月から石巻圏域全体で利用単価の改定が実施される予定であったが、町当局の尽力により本町においては単価改定が見送られ据え置きとなったことから、予算に対しての事業収入は増額となっている。

(1) 主な活動内容（創作活動・社会との交流促進）

月	日	場 所	参加利用者数	内 容
4月	12日	センター内	6人	お誕生会
	13日	〃	8人	大正琴コンサート
	17日	〃	8人	うどんの日（MCボランティア提供）
	20日	日和山公園	7人	お花見
	21日	センター内	6人	3B体操
5月	2日	〃	7人	お誕生会
	16日	イオンスーパーセンター石巻駅前	7人	イエローレシート贈呈
	25日	センター内	6人	クッキング（おやつ編）

月	日	場 所	参加利用者数	内 容
6月	9日	女川温泉ゆぼっぼ	8人	ゆぼっぼで入浴会
	14日	センター内	8人	大正琴演奏会
	16日	〃	8人	お誕生会
	22日	〃	7人	陶芸教室
	26日	〃	7人	ミニ運動会
7月	7日	〃	8人	大正琴演奏会・七夕会
	20日	女川町内	8人	きらら女川利用者と交流昼食会（流しそうめん）
	26日	センター外	8人	じゃがいも収穫
	27日	センター内	8人	陶芸教室
8月	1日	〃	8人	調理実習
	10日	〃	7人	お誕生会
	24日	〃	8人	ミニ夏祭り
	30日	女川高等学園	6人	ユニバーサルスポーツ（地域交流）
9月	7日	センター内	7人	地域交流（福祉教育関連：うみねこ園カフェ）
	14日	〃	6人	昭和女子大生との交流
	15日	女川温泉ゆぼっぼ	7人	ゆぼっぼ入浴会
	21日	センター内	7人	芋煮会・調理実習
	28日	〃	5人	陶芸教室
	29日	町 内	6人	ふれあい交流会演芸出演（カラオケ等）
10月	4日	センター内	6人	十五夜大正琴コンサート
	6日	〃	6人	クッキング
	17日	原子力PRセンター	7人	つばくろ会合同りんご狩り
	27日	女川温泉ゆぼっぼ	7人	ゆぼっぼ入浴会
	30日	センター内	7人	ハロウィンイベント
11月	7日	〃	6人	お誕生会
	9日	〃	7人	陶芸教室
	20日	センター外	7人	大根収穫
	22日	町内・センター内	7人	駅前清掃参加・アカペラコンサート
	5回	センター内	7人	民話のつどい
12月	18日	〃	7人	お誕生会・アカペラクリスマスコンサート
	20日	〃	7人	ボランティアとの交流クリスマス会
	22日	〃	7人	クリスマス会（イオン石巻東店協力）
	4回	〃	7人	民話のつどい
1月	12日	〃	5人	お誕生会・アカペラコンサート
	22日	〃	5人	うどんの日（MCボランティア提供）
	24日	〃	5人	大正琴コンサート
	29日	石巻市・女川町	7人	新年を祝う会
	3回	センター内	7人	民話のつどい

月	日	場 所	参加利用者数	内 容
2月	1日	女川高等学園	7人	女川高等学園内カフェで地域交流
	2日	センター内	6人	節分（豆まき）
	9～23	〃	7人	ウミリンピック
	21日	〃	6人	大正琴コンサート
	23日	町内	7人	アトム通貨でお食事会（きらら女川）
	26日	〃	6人	アトム通貨でお食事会
	4回	センター内	6人	民話のつどい
3月	2日	〃	6人	ひな祭り会・大正琴コンサート
	16日	町内	6人	ゆぼっぼ入浴会・アカペラコンサート
	20日	石巻市	7人	園外活動☆映画館へ行こう！
	28日	センター内	5人	大正琴コンサート
	2回	〃	4人	民話のつどい

（2）生産活動

① ゴミ袋販売活動

【事業評価】

地域で活用してもらうことにより地域とのつながりがより深まった。また、利用者に配達時に同行させることにより障害者理解にもつながった。

② 農耕

◇じゃがいも収穫 7月26日 112kg

◇大根収穫 11月20日 158本

【事業評価】

農耕に関しては、ボランティアの協力のもと3月から11月まで行い、収穫物は利用者とその家族を通し販売した。

③ 検尿容器の袋詰め作業

受注 7,000袋 14,000円

【事業評価】

宮城県成人病予防協会より健康診断で使用する検尿容器の袋詰め作業の依頼を受け、今年度で6年目になる。この作業については、分業作業により一人ひとりの作業能力に合わせて協力して行うことができた。今後も継続して受注できるようつながりを大切にしていきたい。

（3）送迎支援

◇送迎中の事故 0件

◇送迎中のトラブル 0件

【事業評価】

送迎中の事故やトラブルが1件もなく安全に送迎することができた。

また、保護者の高齢化に伴い安否確認も含めた送迎を常に心がけながら、ストレスによる心の変化や体調等の変化を見逃すことがないよう努めた。

（4）障害者相談窓口

家族支援 延べ人数 129人

就労した元利用者支援 延べ人数 13人

保護者緊急時対応 1人

【事業評価】

障害者又はその家族が抱えている問題や思いを気軽に寄せられる窓口になることで、ストレス解消及び生活しやすい環境を創ることに努めた。通院の帰りに立ち寄り悩みや思いを寄せる家族や、就労した元利用者が自分の思いや様子を話していくなど様々な形での窓口となった。

(5) ボランティア

ボランティア受け入れ延べ人数 212人

【事業評価】

長年にわたり利用者の日中活動支援で協力いただいているボランティアのほか、今年度は女川町手をつなぐ親の会会員や個人ボランティアに様々な形で協力していただくことで利用者理解が深まった。この理解こそ利用者を含め障害を持った人が、地域の中で生活しやすい環境づくりに大きな力となるものである。

(6) 来訪者内訳**(延べ人数)**

月	就労した元利用者支援	家族支援・相談等	ボランティア	その他の来訪者	合計
4月	3人	10人	29人	36人	78人
5月	0人	8人	12人	18人	38人
6月	0人	6人	31人	26人	63人
7月	2人	5人	17人	23人	47人
8月	1人	11人	10人	12人	34人
9月	2人	6人	20人	55人	83人
10月	0人	10人	8人	33人	51人
11月	3人	5人	32人	20人	60人
12月	1人	9人	14人	21人	45人
1月	1人	16人	9人	37人	63人
2月	0人	6人	13人	11人	30人
3月	0人	37人	17人	14人	68人
合計	13人	129人	212人	306人	660人

(7) 陶芸

実施回数 4回

【事業評価】

NPO法人みなとまちセラミカ工房の協力により、月1回の陶芸教室を計画していたが、当センター側の事情により4回の実施となっている。

(8) アトム通貨ありがとう製作

区分	4月～9月	10月～3月	合計
新聞バッグ制作数	150袋 2,750馬力	250袋 7,350馬力	400袋 10,100馬力
保護者協力	550馬力	200馬力	750馬力
町民協力	1,100馬力	920馬力	2,020馬力
合計	4,400馬力	8,470馬力	12,870馬力

【事業評価】

町内の新聞店の協力により新聞の古紙を利用して新聞バッグを作製し、その対価として地域通貨であるアトム通貨をいただく。そこで得たアトム通貨を使い町内の商店街で買い物をする事により、日中活動の充実と地域交流の幅が広がった。

あくまでも、町内の企業からの支援によるものではあるが、地域の中で生活するうえでは利用者支援の一つの形として大切にしたい。また、社協だより等を見た保護者や住民から、アトム通貨を利用者のために使ってほしいと持ち寄ってくれる人が増えている。

(9) 個別支援

個別支援については保護者との個別面談結果に基づき、一人ひとりに合った支援に努めた。

(10) 写真入り連絡帳

写真入り連絡帳の発行 243日

【事業評価】

保護者面談時や連絡帳を通じ保護者から生活の様子がわかりやすい、相談しやすいなどの評価を得ている。また、見学者からも好評である。引き続き、利用者の日中活動の様子がわかりやすいような工夫をしながら継続していく。

(11) 保護者懇談会及び親子交流会

保護者懇談会 2回（平成29年4月・12月）

保護者個別面談 3回（平成29年8月・11月・平成30年3月）

【事業評価】

個別面談においては、保護者懇談会では話せないことや利用者の個別の問題に特化した話しもできる等の利点が顕著に表れていた。また、今後の生活に対する課題や不安を抱えており、定期的な開催を含め随時個別面談を実施していく必要性がある。

(12) 啓発事業

社協だよりによる「うみねこ園だより」の発行 12回（毎月）

【事業評価】

毎月発行している社協だよりの1ページを利用し、活動内容を周知することで利用者理解につなげ、地域で生活しやすい環境づくりを目的に行うことができた。

(13) 地域交流

①NPO法人きらら女川利用者と本センター利用者との交流会

シーパルピア女川で実施した。実施場所がシーパルピア女川ということや町内にある就労継続支援B型事業所と本センターとの交流は、地域交流としての大きな意義があるものである。今後も継続した交流をもちながら地域の中での障害者理解を深めていく。（社協だより9月号に記事掲載）

②うみねこ園臨時カフェ

指定福祉教育の一環で本会が実施した「支え合い体験会」のあと、参加者の懇親会が当センターの中で行われた。当日は、臨時カフェという形で利用者がお茶出しなどの接客を行うことで参加者との交流の場ができた。（社協だより10月号表紙に記事掲載）

③ ユニバーサルスポーツに参加

特別支援学校女川高等学園を会場に開催された「ユニバーサルスポーツ」に参加した。当日は特別支援学校女川高等学園生徒・女川町身体障害者福祉協会会員と共に仙台大学・日本福祉大学の学生の指導のもと、スポーツを通じての交流（国際障害者年記念ナイスハート基金主催によるユニバーサルスポーツ体験）となった。（※ユニバーサルスポーツとは、障害の有無に関係なく一緒に実践できるスポーツ。社協だより 10月号に記事掲載）

④ ふれあい交流会に演芸出演

本会の事業であるふれあい交流会に演芸出演者側として参加した。カラオケの得意な利用者を中心に、町民の前で披露することで一つの地域交流になり、理解を深めてもらう機会となった。（社協だより 11月号に記事掲載）

⑤ ゆぼっぼ入浴会

ゆぼっぼ入浴会はゆぼっぼの協力を得て年間を通じ月1回の実施予定であるが、上半期においては2回、下半期においても2回の実施となった。この会は地域交流と利用者のリフレッシュや生活訓練、さらには高齢化に伴って身体機能の低下の予防や清潔保持等も目的としている。（社協だより 8月号に記事掲載）

⑥ つばくろ会と合同りんご狩り

つばくろ会と合同りんご狩りを毎年行っているが、今年度は日中一時支援事業を利用している児童がいたことで、学校行事での児童の様子を見ることができた。（社協だより 12月号に記事掲載）

⑦ アカペラコンサート

震災後何度も女川に来ており、女川町内の学校等でも活動しているというアカペラグループ「AWS」が、11月から本センターにてボランティアでアカペラコンサートを開催している。音楽と人との交流が好きな利用者との相性も良く、毎回大きな盛り上がりを見せ、既に3回行われている。利用者の楽しみの一つにもなっているため今後も継続できるようつながりを大切にしていこう。（社協だより 1月号・2月号に記事掲載）

⑧ 民話のつどい

11月より毎週火曜日に、町内で活動している民話の語り部による「民話のつどい」の時間を設けている。日常聞きなれない話し言葉にも温かな雰囲気を感じとっている利用者と語り部との交流は大切な時間となっている。今後も継続していく。（社協だより 12月号に記事掲載）

⑨ 大正琴コンサート

ボランティアによる毎週定期的な利用者に対する日中活動の支援をいただいている中で、ボランティアの方の特技である大正琴を生で演奏してもらい、それに合わせて利用者が歌をうたうといった体験型のコンサートを行っている。利用者のことをよく理解しているボランティアによるコンサートは他のコンサートと一味違い、利用者も楽しみにしている。今後も定期的に行ってもらおう予定である。（社協だより 9月号・11月号に記事掲載）

⑩ 駅前清掃社会奉仕活動

清掃活動を地域の中で行うことにより様々な人たちと交流を持ちながら参加できた。この活動は、ゆぼっぼ入浴会の協力に感謝する気持ちから始まったものであるが、常に地域の一員として、利用者ができることを模索しながら活動していくことを目的としている。

⑪ 女川高等学園との交流

女川高等学園1年生の産業実習を受け入れ、その中で生徒と利用者との交流を深めることができた。また、その後の関係性として高等学園のカフェを利用することでさらに良い関係を築くことができた。(社協だより8月号・3月号に記事掲載)

⑫ 映画鑑賞会

映画館で映画鑑賞することで、一つの体験にもなりその中からマナーを習得する機会となった。(社協だより平成30年度5月号に記事掲載)

2 年間行事計画に沿った事業実施状況

地域活動支援センター事業については、計画に沿った活動実施となっている。

【年間事業計画表】

月	行事内容	相談・家族支援等	職員内部研修等
4月	お花見・お誕生会 イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン贈呈式出席	保護者懇談会	個別支援会議 部署定例会議
5月	ミニ運動会・お誕生会・クッキング		部署定例会議
6月	収穫祭・避難訓練(地震・津波) お誕生会		部署定例会議 避難訓練
7月	七夕会・陶芸・クッキング		部署定例会議
8月	ミニ夏祭り・お誕生会	保護者個別面談	個別支援会議 部署定例会議
9月	芋煮会・陶芸		部署定例会議
10月	クッキング		個別支援会議 部署定例会議
11月	お誕生会・陶芸	保護者個別面談	部署定例会議
12月	クリスマス会・お誕生会	保護者懇談会	個別支援会議 部署定例会議
1月	新年を祝う会・お誕生会		部署定例会議
2月	節分 アトム通貨ありがとう制作に係る昼食会		部署定例会議
3月	ひな祭り	保護者個別面談	部署定例会議

女川町日中一時支援事業

障害者及び障害児を一時的に預かることで、障害者等の日常的な訓練を行うとともに障害者等の家族に対する就労支援及び介護負担の軽減を図ることを目的とし、適切な事業運営を図ってきた。今年度4月からは小学校新入生の児童の受け入れも行い、小学校入学に伴う大きな環境の変化に適応できるよう柔軟な対応に努めた。

1 日中一時支援事業利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	22	20	22	20	20	20	20	19	19	21	243日
実人員	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
延利用者数	23	21	26	29	27	28	29	25	22	15	25	28	298人
事業費	財 源 内 訳												
	障害福祉サービス等 事業収入		町補助金										
	3,130,482		871,520		2,258,962								

【事業評価】

児童の利用率は安定しており、1人についてはほぼ毎日利用し、他1人については週2回程度利用しているなど、利用日数は維持出来ている状態である。また、保護者の仕事が休みの時には利用せずに子供と過ごす時間を大切にしている等、児童にとってバランスの良い利用となっているが、事業収入にはつながらないことや町の人口規模から考えても町補助金が主な財源となっているのが現状である。

(1) 主な活動内容（創作活動・社会との交流促進）

月	日	場 所	参加利用者数	内 容
4月	12日	センター内	1人	お誕生会
7月	26日	センター外	2人	じゃがいも収穫・プール遊び
8月	1日	センター内	1人	調理実習
	24日	〃	2人	ミニ夏祭り
	31日	〃	2人	お誕生会
10月	30日	石巻市 センター内	2人	ミニ遠足（JR利用でサン・ファンへ） ハロウィンでプレゼンター
11月	21日	センター外	2人	大根収穫
12月	18日	センター内	1人	アカペラコンサート
	22日	〃	1人	クリスマス会
	26日	〃	2人	民話のつどい
	27日	〃	1人	年末大掃除
1月	12日	〃	1人	アカペラコンサート・地活利用者お誕生会参加
2月	2日	〃	1人	節分（豆まき）
	20日	町内	2人	アトム通貨で地域交流（お買物スイーツ）
3月	19日	石巻市	2人	電車に乗って映画館へ行こう！
	28日	センター内	2人	大正琴コンサート

＜毎日の活動内容＞

- ・トランポリン ・音読 ・プール（水遊び・夏休み限定）・音楽鑑賞・読み聞かせ
- ・バランスボール・太鼓・ストラックアウト・創作・DVD鑑賞・迷路創作・ブロック
- ・文字の学習・日本地図パズル・図画工作 等

(2) 送迎支援

◇送迎中の事故 0件

◇送迎中のトラブル 0件

【事業評価】

学校の時間帯に合わせての送迎となり常に調整が必要だったが、入学してからの環境の変化は児童や保護者にとっては大きな負担となっていることから、負担が軽減されるよう柔軟な対応に努めた。

(3) 啓発事業

社協だよりによる「うみねこ園だより」の発行 12回（毎月）

【事業評価】

毎月発行している社協だよりの1ページを利用し、活動内容を周知することで利用者理解につなげ地域で生活しやすい環境づくりを目的に行うことができた。

(4) 個別支援

保護者個別面談 3回実施（平成29年8月・11月・平成30年3月）

【事業評価】

保護者と個別面談を重ねながら、児童の成長に合った支援に努めた。

(5) 写真入り連絡帳

写真入り連絡帳の発行 243日

【事業評価】

環境の変化が大きい時期の保護者にとって、子どもの様子が気になる場所であるが、できる限り活動の様子が伝わりやすいように写真入り連絡帳を発行している。連絡帳には、時系列に活動の内容やコメントでの具体的な様子を記載し、さらに写真で確認できるものになっており連絡帳を通じ保護者とのつながりが深まった。

2 児童の成長

就学前と就学後との変わり目だったこともあり、上半期までは、自分の思いを伝えられず泣くことで訴えたり、母親が迎えに来る時間まで待ちきれずに泣きながら寝てしまうなど、落ち着かない状態だった。しかし、学校での集団生活や本センターでの様々な人とのかかわりの中で、人と視線を合わせることや言葉による意思伝達ができるようになったこと、時間を決めて活動することなど、ひとつひとつ出来ることが多くなってきている。

また、初年度だったことから、本センターが安心できる場所であることや指導員との信頼関係を築けるよう、児童の問題面のみに着目するのではなく、できることに着目した支援に努めた。

ここらとからだとくらしの相談サブセンター

本会では、2か所のサブセンターを町から受託し、「ここら支援員」2名配置により町民を対象とした見守り・相談活動、地域づくり活動の企画運営の支援、自治会・地域活動組織等との連絡等を行った。

ここら支援員の活動状況（相談・家庭訪問等の延べ件数）

（単位：件）

月 受託エリア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	運動公園住宅エリア	260	138	217	271	375	381	318	442	236	232	265	
石巻バイパスエリア	301	341	297	195	369	215	209	252	171	157	102	95	2,704
事業費	財 源 内 訳												
	町委託費	社協財源	その他										
5,886,915	5,886,915	0	0										

【取組み】

- 見守り・声掛け訪問活動（要支援者、フォローが必要な方の社会的孤立の防止）
- 地区活動への支援（自治組織の低下の防止）
- 地域で行われている行事やサークルへ積極的に顔を出して住民の声を聞くなかで相談を受けた。
- 行政区・老人クラブ等との連携。
- 既存住民、新転入住民、仮設住民の交流できる地域づくりへの支援。

【取組みに関する評価及び課題】

- ◎住民が「今」、求めていることをエリア会議で協議しながら、コミュニティ作りの発信に努め、住民自らが動き出せるようなきっかけに繋がった。
- ◎多職種連携のもと、根気強く活動を続けたことで、住民との信頼関係が生まれた。
- ◎お茶会等を企画していく中で、住民同士の横のつながりも生まれた。
- ◎イベント等を通して関係機関とのつながりもでき、相談事項の橋渡しやパイプ役となり、細やかな情報提供が図れた。
- ◎サロン等の実施により、互いに気にしあえる関係を図ったことで、それまでは孤立状態になっていた高齢者等を地域の世話人や隣人が声掛けをするようになった。
- 災害公営住宅等において、自治会独自の交流や見守りが十分にできているところと、住民からも交流を望む声が聞こえているが十分とは言えないところがある。
- 仮設住宅生活期を支えた人材が復興の進展と共に減少するなか、新たな地域福祉基盤の充実と地域を支える担い手の拡充を図る仕組みづくりが課題。

生活支援体制整備事業

女川町からの受託により、平成 29 年 4 月から、生活支援コーディネーター 2 名を配置し、地域において、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備等を目的に、地域の諸団体、組織、住民への働きかけや協働などの活動を行った。

事業費	財 源 内 訳		
	町委託費	社協財源	その他
5,135,231	5,135,231	0	0

○地域資源の開発

①地域づくり会議

健康福祉課、保健センター等の呼びかけにより開催された「地域づくり会議」に生活支援コーディネーターが出向き、実際の活動につながるよう地域の現状や、地域の「集いの場」や「支え合い」活動などについて説明した。

②支部長・福祉活動推進員合同研修会

地域における高齢者の交流や介護予防の拠点となる「集いの場」が各所にできるよう、支部長・福祉活動推進員を対象に、「集いの場」の現状、実際の活動内容について情報提供を行った。

③介護支援専門員研修会

生活支援コーディネーターとして出席し、介護支援専門員に対し、地域の「集いの場」等の地域資源に関する情報提供を行った。

○ネットワークの構築

④エリア会議・保健医療福祉調整会議

健康福祉課、保健センター、地域医療センター、地域包括支援センター等と地域課題等の情報共有や連携体制の構築のために開催される会議に出席し連携を行った。

⑤生活支援コーディネーター定例打ち合わせ

生活支援コーディネーターと健康福祉課の間で情報交換や意見交換の機会として、定期的に開催した。また、宮城県社会福祉協議会とも同様の内容により開催した。

○ニーズとサービスのマッチング

⑥地域の支援ニーズと地域資源のサービスのマッチング

地域住民や関係機関から挙げられる地域の支援ニーズに対して、「集いの場」やボランティア等の地域資源をマッチングし、課題解決を図った。

○その他

⑦「集いの場」の見える化

地域にある「集いの場」の一覧を作成し、関係機関と情報を共有した。

⑧生活支援体制整備協議体の設置および運営

生活支援等サービスの提供主体同士が、情報を共有し、連携強化を図るための場となる協議体を設置および運営を行った。